

真子へ

千華へ

義人

H30年3月

## 新約聖書

### ヨハネの第一の手紙

#### 第3章

わたしたちが神の子とよばれるには、どんなに

大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたち、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

2 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものになることを知っている。その御姿（みすがた）を見るからである。

3 彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあらわれるように自らをきよくする。

4 すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

5 あなたが知っているとおりに、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんら罪がない。

6 すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯すものは彼を見たこともなく、知ったこともない者である。

7 子たちよ。だれにも惑わされてはいけない。彼が義人であると同様に、義を行うのは義人である。

まえがき

「なんだ、早くも登場か。大人しくしてればいいものを」。悪魔の呟き声がする。降雪、積雪。母がドンドン除雪をする。私はしない。私には解る、サタンの意図が。私が、必死になって歯を食いしばり、生活と格闘することを悦に入っているのだ。だから私は動かない。雪は必ずとける。ずっと冬籠りを続けよう。聖書が言う。「酒でものんどれ」。そうか、ジッと春の来るのを待つ。正解みたいだ。母は絶対参ったとは言わない。ニーチェの馬というハンガリーの映画がある。確かタルペーラという監督のもの。大筋は唯一移動手段だった馬が動けなくなり最期、悪漢によって井戸に砂を入れられ食いものも尽き、孤立死に向かう父娘の話だった。ニーチェは狂う何日か前に荷車を引けず鞭で打たれ、いなくなると馬の首にすがり「私と一緒に」と号泣したという。何かに縛られる人間たち。生老病死。立ち向かうことで名誉を付与され、また頑張る。神の懲罰なのだが、皆、サタンが最も喜ぶことをいつも選択する。だが尽力する皆ありがとう。来る世まで懸命に生きるのには仕方のないことなのかも知れない。なぜ、神を信じない。欲望を追うのではなく、愛をもってお互いを察し、目的を作らず人生を歩む。意地を張らず助けの声を挙げる。因縁と親切心があれば必ず愛をもって報われる。人は思うより孤独ではない。ちょっとした行き違いと意志薄弱から人間関係はふらつく。そこから逃げ出す者もいる。裏切りである。友情とはいかに。弱くてケチな人が大半だけど、人に対し過敏にならず皆、寛容に生きようよ、確かに神の国が待っている。取りあえず愛し合おう、すべての枠をこえて、きっと幸せになれる。自由、平和、愛。

そしてたくさんの真子、千華が世界中にいる。愛すべき若者たちだ。ニーチェや尾崎豊のように束縛を感じ競争社会の中、自由を求め世間に黙し立ち向かった、そんな若者たちがいる。独りアパートで声を押し殺し泣いていた、いたいけな彼ら、彼女たちは救われなければならない。そして若者よ、いつも素直に生きよ、君達は一人じゃない。神が見ているのだ。天を仰ごう、また地を踏み、しっかり人に接しよう。壁に向かってぶつぶつ言うのは禁じ手だ。自分たちを虫けらたちなどと思わず本当の宝の山だと確信し、また周りに認知させよう。失業中、職業訓練の日、講師が「長所の無い人間などいない」と。「私には売りになるものは何もありません」と応えた。ただ働くだけが能じゃない、乞食のプロもいるだろう。いかに憐れに見せるか。インドでは親が生まれた赤ん坊の手足を切断するという。乞食の階級に生まれたからである。しかし自信をもとう。長所の無い我が身が悪いのではなく、そう信じ込ませた非人間的な組織が悪なのだ。サタンと戦う、勇気あるホームレスは自由に生きる。また幸いにも乞食のように生きている人はたくさんいるだろう。それでいい。この書きものはそんな受け身の人にも勇気が与えられる。そんなものであったらいい。

## 第1章（真子へ、千華へ）

真子へ、千華へ、私に望みを抱いている者は私が清くあらわれるように我が身を清くすると新約ヨハネの第一の手紙にある。たとえ罪を犯しても清く正しい愛が神と隣人に対してあるなら、自らを清くすることから外れない。神への従順それが大切だ。お布施に市場価値、金銭価値を持ち込むのはご法度。心からするなら金額は問題ではないのだ。貧者の一灯の譬え。額でなく温かさなのだ。できる範囲でね。仏陀が来られる。金持ちがたくさんの蠟燭を立てます。その段になって一本だけが消えませんが。貧しき老婆のものだ。仏陀はその心根に成仏を約束されたという。ようはモチベーションがあり成績上位だった奴はわけもなく競争が好きである。のんびり優劣など念頭に置いてなかったやつは、今の世界では生きにくいのだ。罰が当たった。その延長線上に預言者の赦しがある。よく判らぬが念仏すれば地獄におちないことを信じる。逆に信じない方が良い。念仏の意味を知って悪を肯定した罪は、かなり大きい。嫌な人と物理的に離れる。会話に対決的な悪意が入るからだ。倫理から見てどうか。つまらぬ問題。気にするな。「自分は協調性がない冷たい人間なのでは」とか良心は痛めるな。本当、アホらしい問題である。南無妙法蓮華経の唱題、悪縁は去る。世の中は向い風が来たかと思うと送り風に背中を圧される。そのうちまた向かい風が吹く。ようは世間の評判など気にするなということだ。自分を信じ進め。経済的な問題、世間体。婚姻を維持するモチベーションである。神の国では皆を縛る婚姻は無くなる。夫婦間の契りは悪く言えば破たんするのかもしれない。皆、神の御使いのようになる。自慢をいつもする人がいるね。おじちゃんも嫌いでした。だけど自分にリスクがないのなら、それは知識の宝庫と言える。いい情報源だね、耳を澄ますことだ。欲望というより自分の想いに忠実であれ。相手のことを思い、身を引くなど甘ったるいことを神は認めない。素直に生きよ。悲しい恋はなし、明るい歌をうたえ。真子、忙しいのだから。無理をせず、楽な気持ちで根を詰めるな。重要どころだけやり、他は人に任せよ。長時間労働なるべくするな。第二の電通、高橋まつりさんには絶対なるなよ。用事や体調不良で会社を休むか休まないか。即休め。サボっているのだから自分を優先させよ。私はたとえ地球が砕け散っても君達が無事ならそれでいい。聖母マリアは鬼です。息子の為には献身的です。それが独立心の芽をそぎ、また散々侮辱し、彼を息子の位置から外さないのです。ある意味しらけたイエスの心情が解ります。本当に。真子ありがとう。声が聞けて嬉しかったよ。家族は遠慮がないから喧嘩も仕方ないさ。何にでも理想と現実はある。感謝を忘れずアプローチしなさい。(笑み) 孤独を克服し楽しめと話した。「ひとりの孤独には耐えられるけど二人でいる独りには耐えられないから」、ある曲のフレーズだ。隣人を愛する、深い心中、矛盾してはいないのだ。周りの人の個性を視ながら、愛、思いやりといった共通性を感じる。これが仏教という智慧です。弱きものの気持ちが解るから、私たちは存在する意

## 第1章（真子へ、千華へ）

義があるのです。評価を得たい、脚光を浴びたい。自己嫌悪に陥らせるため、サタンが植え付ける、見当違いの欲望である。人は和やかに友情を深める。競争より、優しさが似合う。科学技術が進歩する。そのモチベーションはポジティブな宗教観がベースにあると信じている。そして辛いときは音楽を鳴らしなさい。尾崎から力をもらえるよ。必ず。祈りの言葉を教えたね。玄関を出る時も入るときもわずかな時間でいいからしっかり祈ろう。家族の内に入り込んだサタンを追い出すため。効果てき面、笑顔が自然に。犠牲は絶対よくない。人にもそれを強いたくなるからである。喜びから生まれる奉仕の心が大切である。パパとちゃんと話してみなさい。君たちを愛しているよ。家族がバラバラになる、イエスも言っている。真実の愛を見つけるため。君たちは人というものの哀しみを学ぶのだ。その時、君たちの真実の眼は開かれるだろう。エデェプスコンプレックス。男子は父親を殺して主導権を握る。自然なことなのだよ。パパを邪険にしてはいけないよ。逆効果だ。心からねぎらいのお茶を入れてさしあげなさい。

周りを見れば侮辱してくる奴ばかりだ。そう思った時、成長する機会だ。孤独に耐え新しい友を見つけよ。神の愛を携えた美しい心の仲間。存在を信じている。

自分と次元の違い、思いやりがなく人を侮辱する人間とは、オサラバし、付き合うな。つまり低レベルで思慮のない依存的人間。また何かと否定してくる輩さ。良識ある友、大事にね。正しいことがこの世の倫理から外れているように見えることもある。一番大事なのはそこにいたわりと愛が存在するからだよ。好きな人の子をうめ、女性の特権だよ。戦いで死ぬより、座して死を待つという人が世界中に溢れれば真実の平和が生まれるだろう。高尚すぎるかな。不可能かな。いずれにせよ死ぬときは死ぬのになあ。夢、希望は円滑な人間関係をつくる時叶うだろう。しかし、人殺し、盗人とは同席できない。絶望に包まれそうだが、また愛に気付くこともある。善を懐いて生きなさい。きみたちはまだ博愛に生きるには若すぎる。周りから色んな関与の手が入るかも知れない。たった一人を選びたくなる。一人を求むからこそたくさんの男性が必要なのだ。罪から解放されるには、イエスの自由奔放、縦横無尽さへの気づきが重要でした。昨晚の苦しみはそのための陣痛でした。新たな境地にはいつも苦が伴うのです。でも嬉しい、聖書も保証、神です。旧き概念よ、去れ。愛がすべてです。病院勤務時代の話、決着をつける時が来た。「悩むから悩みになるのだ。正義とはそんなものすべては神が定められる。不遇にある人はそういう因縁なのだ。だからこそ、今、無理をせず非道を犯さない」。R会の信者は曲がりなりにも南無妙法蓮華經を御宝前で唱えている。組織、教義、代表者たちには懸念、懸案があるのも事実であるが、もう信者の無知をことさらあげつらうのはやめよう。ただ南無妙法蓮華經の意義を解ってほしいだけなのになあ。ふたりとも悩んでいるか。悩みなさい。仕事、異性、家族、友人、悩みつくすとき怒りは持たない。解決は逃げ出すのが

## 第1章（真子へ、千華へ）

一番だと気付く。逃避するのだ、愛を忘れずに。人間関係、相手のクセを見抜け。絶対、弱みを見せたくない奴もいる。流し、面倒くさいから納得したふりをせよ。変な見栄をもつ者がいることを知るもよし。決して食らない。食欲は己に執着している証拠だからだ。他人の間ではケチでとおるだろう。そのえげつない態度に、人は眉間にしわを寄せるだろう。おじちゃんの言う、義は人情とひとつに愛なのである。縛られる義理とは、けして一緒になく、違うのだ。なぜ人は自然に優しく生きていけないのだろう。辛いね、本当に。勉強は新しき見知らぬ世界を知るためにする。それは困窮している人達のため。でもね、全て自分の為なのだよ。勉強しなさい。善きものが見えるから。正義とは辛い。対象への攻撃になることもある。正義感をよく考えること。独善的でないかい。真実なら龍が臥すように時機を待つよう。流れも変化する。くれぐれも短気を起こし無理をしてはいけない。お前たちの名誉棄損をおじちゃんが犯していると思うかい。そんなことをいうやつは嫉妬深いか、君達を通しての若者すべてへ向けての愛のメッセージだということが理解できないのだ。堂々と生きよ。人生はただ一つオリジナルなものだ。君たちはもう解っていると思うが焦りを呼ぶ比較は必要ない。幸せな人が幸せなのだ。愛があるからだよ。ちょっと心配になったから。

仕事は大事だけど自分を無くしてはいけない。最後大切なのは自分だ。だからこそ仕事、仲間を大事にする。逃げだしていい、またスキルアップに向かうときも主体性を忘れない。君達にも頬を濡らした泪があるなら傷つけられたことは忘れなさい。そして少し高くても洒落た服を買って闊歩しなさい。心を整える。恋の足音が聞こえてくる。おじちゃんはこのクリスマスまたしても失恋した。聖霊の仕組んだものみたいだ。わしは来たる世まで自分の為より周りの幸せに尽くさねばならぬみたいだ。聖書はエホバの証人のように文言だけの解釈ではだめ。思いやりをもち良心に従い想像するときイエスの愛は姿をあらわす。そこまでくれば神の心が解る。私は君達を守り続ける。恋愛、ふった、ふられた、ある。勝ち負けがあったように錯覚するが、ふられた方が大人で純粋で人格が優れていることは多々ある。相応しい人を待ちなさい。生活のなかで、追立てられて、しんどい時、首をコキコキさせ、わしほどのものかと思おう。落ち着いてまた歩んでいこう。視界が広がるよ。君は君だよ。頑張れ。幸せはささやかであればあるほど天では光り輝いているのだ。それが解るときすべての問題は解決するだろう。神に感謝して生きてゆきなさい。愛を抱きしめて。俗的栄光は人々の妄念のためうす汚されることが多い。ただ回転ずしを持ち帰り家族で頂く障害者。幸せは歴然としている。優しくあれ、幸せは転がっている。メールは役に立っていないかもしれない。けど私にはどうしても伝えたいものがあるのだ。老婆心かも知れない。いつも君達を愛するものが存在することを忘れないでください。

愚直なまでに生真面目で子供のように無防備。それがおじちゃんです。君たち

## 第1章（真子へ、千華へ）

は賢く生きて下さい。私は圧倒的静かな個性で神を生きたいと思う。本当に静かに。小さきことへの感謝が大きな喜びを育む。欲望少なくして、僅かな幸せを見つけ大切にす。それを天が神とともに記録するのだ。大きな欲望ほど醜いもの。天の記録とは祝福のことをいう。この世でどんな傍若無人に遭おうとも愛を失わず掲げよ。苦しみの果ての愛はいつそう輝くのだ。経験を、愛を人様に向けよ。わしは組織から離れ生活の決まりごとにつくらず自由に生きている。家族には自然に小言はやめる。自省を期待するが、実はその小言は仲たがいするほど大事で必要なことだったのかな。夜分ごめん。ミスコンみたいな恋愛はやめよ。異性を優劣と損得で選択する。浅はかな陳腐な様相だ。まずは優しさで、人様に真心を込め御茶一服しんずる。そこからだ。世の中おかしいことが多いね。人を殺してはいけないのを皆知っているのに、軍人が手柄を立てると名誉が授けられる。秩序とは何か考えてみよう。飲酒運転は本当に悪いかい、認知に問題のあるお年寄りについては。泥酔が良くないのだね。お年寄りについては自主返納である。どちらも危険なのにおかしいねえ。認知症より飲酒の方が安全な場合があるということだ。でも法律は飲酒の方が罪は重い。真子、千華、気に病むことはない。わしが甘えていたみたいだ。お前たちは現役だ。ひたむきに仕事をこなさねばならぬ。だけど辛ければ必ずいつでも逃げ出せ。成仏とは心配がなくなること。夢とは外へ向かい欲望は内にて燃え盛る。その違いをいつもこころえよ。間違うなよ。夢は愛から生まれる。欲望は醜いもの。傷つけずには生きていけない世の中。あえて傷つけることになる選択、主張。明るく素直に温かく、傷つけられたなら相手を恨まない。その哀しみを知ろう。もう熟睡中かな。私はスナックへいった。不快な客がいたので私は友を残し帰宅しました。君達も自分を大切にすること。嫌なものは嫌でいい。君たちの守護神より。議論は人格の成熟がないと勝ち負け共に傷つくことになる。論争が好きな人は修羅の巷が似合うのだ。君たちは逃げ出さなさい。愛を失わず、勝ちを譲ったりしてね。論争を好む人は傷つけ合いが大好きで極論としては、押し付けを目的とする。人格の成熟とは物事を客観し、愛を抱くことである。目指しなさい、君達の正論を。

義とは愛すること、不義とは欲望に駆られ愛さないこと。分裂をもたらす非情には天から罰が下されよう。神に従順であれ。幸せのために、神の御使いたれよ。

立派な人間などどうでもいいことだ。責任を果たすところから生まれるという。責任感とは社会通念上仕方なく必要なだけ。無い方が幸せに近い。自由を求めたいね。雇用されるなら労働者としてマッチングするか大切だ。評判、情報を分析、精査し臨め。親は人生観を押し付けるだけだ。検証はできない。雄々しく自ら起て。羽根バアちゃんは重い酒の箱を運び、爪に火を灯すようにしてわしを進学させてくれた。君たちの両親も一緒だ、感謝しなくてはね。きっとそこだよ。もう解るね、幸せの始まり。開放的になれ、皆、似たようなことをやっている。

## 第1章（真子へ、千華へ）

代弁者に親近感を持つ。損得を考えず素直に、人懐っこくなる。人の欠点も気にならなくなるよ。愛される。海猿、映画、君達も観たか。自己犠牲。違っている。それはやむにやまれぬ、心情から生まれた静かなる栄光へと向かう意思だ。君達も隣人には尽くせ。友情は生活不安を解消します。自分を大切にすることとは、ただ自分を守ることばかり考えるのとは違う。会社、保身より正義、愛を優先せよ。それが仕事に責任を持つということ。孤独に勝て。親、会社、宗教団体どんなものにも精神、肉体を縛られてはいけない。信じられるのは、天に裏付けられた、神仏だけだ。主体性を忘れず、宇宙の法に委ねて生きて行きなさいね。ひとり無愛想に超然としてはいけない。生活者の一人だ。愛想も思いやり潤滑油だと思ふこと。高く評価されるよ。神の国へどうぞ、いつまでも待つよ。私は。ソチと一緒に布団にくるまっている。昔のヒトは暖房に猫を抱いていたのかもしれないね。温かい二つの命が互いを感じている。幸せな気分のひと時だね。孤独ってあったかな。わしは売りたい。金が欲しい、明るく素直に暖かく。聖書が認証する。美しい願いだからだ。友人の墓に献花したい。永遠の命、神の国へ多くの人を導きたい。皆、可能だから可能。不可能だから不可能。君達は運よくそれに気付いた。どんな地位、場所に居ても愛を抱いて目の前の道を歩いていけ、宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃えよ、ある人の座右の銘である。明るく素直に生きる時、故意でなくて傷つけることが多々ある。「悪いねえ」と、言葉にしなくても温かく思いやりを働かそう。難しいけどね。真心は伝わるさ。私の今までの人生の選択は間違ってた。あまりにも無防備な学生時代。計算に乗り切れなかった就職時代。だから俺は神になった。愛を抱いて、掲げて。人は一人では生きられない。努力にこだわる人に限ってそれが解らない。鬼の形相になる前に自然に依頼すればいいのにねえ。そして感謝だね。安楽を求めなさい。聖書。あいつは人を惑わすものだ。いやあの人善き人だ。神から来たものなら私の愛が解るだろう。すべては神の意志である。自由と愛。掟から解放されよ。私は安易な結婚が許されなかった。でも良かったと思っている。社会には不義理かもしれないが人権上、許される。愛があったのは確かだ。だが未熟だった。君達はひたすら自らを研げ。それは寛容になること、思いやりをもつこと。そして上品で個性的ないでたち。明るく素直に暖かく生きて行く。風の中で誰かが。君達の見限りでは、この世に尊敬されるような親などないかもしれない。覚えとけ、この世の親は、大概は、尊敬に値する。君達の五体満足が良き証拠だ。けして軽蔑などしてはいけない。もし短所があるとすれば反面教師とせよ。愛をもって理解せよ。恋をしたなら一直線。周りなんか気にするな。ひんしゆくをかって。仕事なんかどうでもいい。命を燃やせ。これだけは忘れるな、人間は皆ケチである。友になりたかったら友と扱おう。裏切りの意味はいつか知る。完璧などない。自分が可愛い、そんな人が多い。恥ずかし



## 第1章（真子へ、千華へ）

くないことなのかもしれない。人に頭を下げるのは一回だけでいい。侮辱されな  
いために。人の為に使った労力は高い利息を付けて返ってくる。でも決して計  
算高くなれとは言っていない。無償で人に尽くしなさい。嫌な過去は新聞紙と同  
じ様に、棄てなさい。なんとか衣食住はある。貧困でも自由がいい。しがらみ  
に囚われないからだ。財産があればあるほど、喪失を恐れることになる、執着を  
もたない人なら造作もなく入れる神の国なのに金持ちほどラクダが針の穴に通れ  
ないように難くなるのだ。ある人が言う。おなじ場所に居て星を見るものと  
泥土を見る者がいる。でも私が思うに肝心なのはその対象に何を見出し学ぶかだ  
である。決して泥土を選択したからとて悪いわけではないのだ。最初に、「嫌なら  
メールはいつでも止めるから心配、遠慮するな」。本題に入る。長いものには巻か  
れる、愛があればそれは正しい。下部でただひとり苦しむのでは不平不満だけが  
つのり正義は生まれないだろう。大義は愛によって人間の尊厳のため仲間と結託  
するとき見つかるのかもしれないね。そしていつも神は愛に味方するのだ。犠  
牲にならなくてもいい。でも結果的に自分を傷つけるものならよく吟味しなさい。  
そしてもし他からの関与を了承したなら損することも泥の跳ね水くらいに笑って  
見過ごす覚悟をしなさい。夫婦は経済的同志になるとき博愛に目覚めなければ  
ならない。自分を呼ぶ声に耳を澄まさねばならない。そこに美しい心があるなら  
愛は働く。嫉妬無き世界。祈るとき健康と健忘が旨い具合に顕れるだろう。す  
べてが正解に導かれる。人を傷つけることになる時、内なる声に恥じぬなら許  
されるだろう。まず祈ろう。おじちゃんが精神障害者で君達がメールによって  
縁遠くなる。誰かが言う。私は神である。離れて行く男はそれだけの器だとい  
うことだ。良縁を信じなさい。女性には絶対に自分は悪くないと信じる、羨まし  
い性癖をもつ者がいる。平気で人を傷つけ、その心中を訴えても痛みを知るこ  
とはない。君達はどうか。傷つけ、つけられても、すぐ忘れ参上し、また逆に  
拒絶もしない人がいる。幼稚だがなぜか気になり憎めない。すべて仏の世界。怒  
りは必ず滅却させ、愚痴に変化させてはいけないよ。雪、大丈夫か。三日前か  
らソチが私と寝るようになった。温かい。生活不安に苦しむ、バアちゃん。ソチ  
は感じるのだろう。神と隣人を愛し信じる。不安は消えて行くのにね。愛をな  
して咎を受ける、叱責される。そんなこと想定済みだ。心で祈り、力強く生きよ。  
主体性を無くすな。誰かが天に記録し評価しているよ。しがらみより想いだ。互  
いに小言は言わない。皆自分は悪くないと思うから。自覚を促すにはそのことが  
如何に合理的でなく醜いか知らせること。事実だけ伝え、感情にはしらずにね。

ソチと一緒に寝るようになって4日目だ。バアちゃんはテレビを観て昼寝して  
いる。堕ち込んでいるのは夢がないからだろう。可哀そうだが終活も考慮すべき  
だ。お袋は病と死ぬことを悩むほど恐れている。人生を振り返り成したことの  
一番は私を保護してくれたことだ。でも大事なものは神仏のおかげと感謝すること

## 第1章（真子へ、千華へ）

です。最後に近づくにつれ温厚になり受容的な思いやりを持った年寄りになるべきです。腰が痛いのでしょうか。まず地域包括センターへ、ママの出番はそれからだ。バアちゃんの頭の中、色んなものでいっぱいだ。恥、メンツ、健康願望。強情で独善から離れられない。年とともに心は整理されなければ。満杯だと愛を受けきれない。ニルバーナ、般涅槃。煩惱の炎が消えた状態。つまり死を意味し、また肉体からの自由を呼ぶ。これを彼岸に渡るといふ。君たち、怒りの炎は消しなさい。ニルバーナ、煩惱の炎が消された状態と記したが突き詰めると生命の灯が静かに燃え尽きる境界だ。皆いつか死ぬのだ。怨嫉は忘れる。幸せは待っている。釈尊は供養された毒コケを食し入滅された。そして布施したその人を責めてはいけないと言われた。悲しくも生きることは他と傷つけ合うということだ。宿命なのだ。私は博愛を訴えてきた。だがその前に真実愛する人の為生きなければいけない。報われなくても尽くす喜びがある。そんな人達を愛するのが博愛である。私の恋愛関係妄想は収まった。色々お騒がせしたが、いろんな別離がある中で心の整理がついてきた。私は真由子さんだけを愛している。真実の純情にて。真子、千華。私がどれだけお前たちを愛し大事に思っていたか、いつか判るだろう。金を追いかけるより愛を抱く方が絶対幸せになれるのだ。早く気付けよ。これがおじちゃんからの最後のメッセージとなるだろう。本音、声くらいは聞きたかった。お前たちは本当に愛を失ったのか。非情から暖かさは生まれぬ。私の意を汲んだ妹が食事会の場をセッティングしてくれた。会計は義父つまり真子、千華のじいちゃんが払うという。このあたたかい席を母はまたお返しなど考え、断ろうとしていた。私は「俺が金を払うから真子、千華に会いたい」と言った。席では千華には逢えなかった。ディズニーへ行ったという。木曜日の夜であった。真子、綺麗になったな。心が穏やかで美しい証拠だ。モードも上品で好感を持った。ただ仕事の疲れか明るさが今一つだったな。女性として成長を感じたよ。千華、お前はおじちゃんの罪が赦せないのだな。俺はこれからも苦しみ続けるだろう。だからこそお前は素直に愛に生きてほしい。世間に負けず純粋であれ。正義を打つとき人を傷つけるのは避けて通れない。また失望しても絶望はするな。それは新たな希望、境界への魁である。千華、自殺は絶対いけない。素晴らしい愛という価値観があることに必ず気付くから。真子、君はもう解るね。ふたりとも何があっても君達を愛している者が存在することを忘れないで下さい。まず女性なら人に恥ずかしくない想いを相手に持ちなさい。それは誠実と思いやりだ。そこに感謝する男性が最良の人なのだ。決して焦ってはいけませんよ。婚姻にはとらわれてはいけませんが、憧れることは悪いことではない。そこを上手に歩いていきなさい。明るく上品に自分を見失わない。愛をもち自然に生きよ。勤勉、怠惰いろんな模様が見えるだろう。そこには不平不満を含め様々な思いがあるに違いない。自然体で向き、何があっても愛を信じ、気

## 第1章（真子へ、千華へ）

に病んではいけない。公益を考える時、それが自分の為になると信じられればいいね。責任感は程々にしてね。自分を捨てず大切にね。犠牲からは何も生まれない。愛は栄光。お前たちを否定するものに耳をかすな。思惑が見え隠れする。奴隷ではない。自ら正しきものを選択せよ。愛に基づいて。侮辱に負けるな。私の言葉を信じよ。お前たち、私の姪なら極楽トンボということは絶対なく、むしろ石部金吉といった堅物だろう。それでいい。それを前提にメッセージを贈っているのだから。人間関係、健康、お金。この三つ、幸せを決める要件だという。愛がないと全てはありえない。欲望にはしらず美しく尽くす愛の発展の中に幸福は存在する。いろいろ牽制、干渉してくる奴がいるだろう。だけどそんな奴らを根こそぎ改心させるような一途な美しい恋をせよ。愛を響かせよ。お前たちの使命だ。自分を特別だと思うこと、そんなに悪いことかな。だからこそ己を大切にね。愛を抱き相手も特別に扱ってあげよう。敬意をもたれること間違いない。愛すること。自分が特別だとしても、周りの人間に何の善なる影響を与えないとしたら、相手にすれば共感できず、ただのうどの大木とみるだろう。愛をもって対処せよ。ただ送られる、人の意見に翻弄されるな。真面目な自分を信じよ。愛と思いやりを忘れるな。自由平和が何より大切なものだ。邪魔をされてはいけない。ある人が言った。あなたは真面目すぎる、明日は明日の風が吹くと。それはいい。大事なものは、蒔かぬ種は生えぬということ。愛を振りまけ、心配はやめて。バアちゃんのような自己中心的で相手の立場も考慮しない人間には沈黙で対処するしかない。優しい愛は理解できないからだ。私は諦めた。親子を辞めたい。おじちゃんは昼間から酒を飲んでいる。最高の幸せ者だ。紙飛行機、どれだけ飛んだかよりどこをどう飛んだのか、大切なのだ。いい言葉だ。心のまま風に向かえ。一時の気の迷いはしょっちゅうだ。親子は辞めるわけにはいかない。いざ君達をパパは命がけで守るだろう。おじちゃんも愛をもってそうありたいと思う。反抗が自由と平和の名の下に終焉したとき、当時者と保護者の間には美しき風紀が完成されなければならない。心が調整され穏やかな上品さが生まれ、愛が満ち、けして乱れない世界である。潔癖から派生する完璧。でもそんなものは幻想で存在しないのだ。目の前の人の言葉を大事にしなければいけない。心が見えるからね。愛ある配慮が全てだよ。いいか、どんな旨い話を聞いても自分の価値観を信じて前へ進め。真面目なお前たちは間違っていない。愛を信じ負けるな、私の姪ならば自分の声を信じよ。地団駄を踏み、奥歯を噛み締める。自分が正しいと拘る処から客観し離れることが出来ない。怒りと思いの強さは伝わるが、自分勝手に独善的、周りは迷惑するよね。少しいつも損することを覚えなさい。さすれば食欲より離れ寛容になれる。人の喜ぶ顔をいつも想像しなさい。そして布施。嬉しさが一つになり、幸せが倍増。聖母マリアは鬼にも蛇にも、特に我が子イエスの為には夜叉となる。聖霊に操られている。

## 第1章（真子へ、千華へ）

心底は悪魔ではなく仏、神の愛があると信じている。献身的な我が母である。神は最低の者であった。己の栄光と名誉のため、人間に善悪の判るようになる智慧の実、悪魔を使い食ませた。そして真実、後悔しイエスを民の贖いとして遣わした。イエスは神の罪も民の罪も背負って十字架についたことになる。この犠牲ではない愛の栄光。神は絶対である。そこからは外れないのである。いつも美しい願いをもちなさい。たとえば周りの人の平和。そして森羅万象に広がるように。さすれば身も清くなる。まず自己を忘れて。神が保証するからね。外からの関与に応えるのは許容できる範囲でいいのだ。優しい自分を大切に。上司の叱責はデモンストレーションの部分も大きい。仲間と共に気にするな。死んでまで仕事はできない。仕事は肝心、要だけ注意してあとは適当でいい。真子、就職すべて世間の、体制を守るため存在する。才能などよりも愛、友情を大事にして生きなさい。幸せはそこに。受けを狙うな。描きたいものを描きなさい。千華、偏差値、知能指数、そして受験、就職すべてこのシステムは体制を守るため。だから優劣などよりも愛、友情を大切に生きなさい。幸せはそこにある。生きて行くとき人間、利得と義理と人情にぶつかる。義理が重たい世界という。イエスは言う。義は信仰、愛であると。楽しく生きるには愛を重視することだ。ひとはいろいろ関与、牽制してくる。本当のように聞こえても不用意に自分を曲げるな。核を持ち意に沿わぬものは後で検証することにし取りあえずは流せ。悪口は神の批判しか認めたくない。神は深慮遠謀して言葉を発している。それは確実に対象の罰に通ずる。君達も批判したからには内容を覚えておく。愛の為。目に見えない世界。そこには権力につながる階級はない。しかし愛による霊格が歴然と存在する。それを否定し必要以上の富と、神に好まれぬ戦いからの名誉を追い、愛から転回させるように仕向ける勢力がある。それは許されず、排斥されるのだ。罰である。泣きそうで、負けそうで消えてしまいたい日々もあるだろう。内なる声、神の声に耳を澄まそう。もうすぐだ、来たる世界。誰もが悲しい泪はない。ガンバレ。死の恐怖に打ち克つには夢をもつことだ。一番いいのは出来るだけ愛を振りまいて神の御心に添い死んでからは何の心配もない、天国へ行くこと。何のために結婚するかよく考えてみよう。結論から言うと愛する人と居たいからだ。決して世間体や見栄の為じゃない。まず仕事があることに感謝して。イエスは天の父という演出を用いた。権威を落とされぬため、「崇めるように祈れ」。一方イエスは人間に示現し親友となり、牧童から皆と同じく羊となる。だが神性を帯びたものである。上品な姿をせよ。と、いつも薦める。わざわざ人の眼は気にするな。見抜く奴は見抜く。上質に生きろ。明日が見えるだろう。君達の誠実さが伝わるぞ。真子、千華、素直に愛を持って生きるときこの世に怖いものはない。悪縁は去り、良縁が訪れる。人の善意を信じて行きなさい。またメール送る。祖母ちゃんは迷惑だと。でもありがとうの声がするんだ。

## 第2章（宗教者へ）

山口さん、義は見方によって意味と価値は変遷する。愛が呪縛し所有を求めるものなら、互いが束縛で苦しむ。自由を認め信じる。博愛（アガペー）だけが平安に導くのである。義というものが思いやりなら博愛とマッチして人々の幸福に貢献していくだろう。つまり義は神の意志であるが、抽象的な愛、思いやりとして認識された方がいい。自由な愛を守るうえで。もしあなたが本当に神を愛し賛美するなら、私の話を虚心で聞くはずです。隣人を愛するなら私に受けた傷はもう赦すはずです。お待ち申します。サイトに（善良なる罪人）という作品を上げました。またよろしく願い申し上げます。小野さんはエホバの証人の見解にとらわれず、是なら私に同調してくれる素直な心をもつ好青年だと思った。山口さん、反して負けず嫌いは不従順に繋がります。憐みのため、神の愛ははたらく。長く音信不通でしたね。話したいことは沢山あります。宗教関係の会話は歓迎です。お待ち申しております。山口さん、なぜ布教を自己犠牲と呼ぶ。神の立場として褒めない「信者を増やしたい」という欲望から、対象の幸福を祈念するということへの方向転換。犠牲ではない無私から出る優しさの発露。「本心から教えを広めたい」それが真実の喜びと栄光に繋がる。辛いのは基本的に良くない。分析が悪魔、同情が神の世界。体制の崩壊する日付の明示や、神とイエス、聖霊の関係を判別させようとするのは悪魔のやること。判らない。これが最良なのです。真実の愛の行方のために。山口さん、解ってきたね。約束時刻なんかどうでもいいのだよ。期待を感じれば、誰にでも、いつでも、馳せ参じればいい、それが神の心から出る思いやりです。我々は時刻の奴隷になる必要はない。神、イエス、聖霊が歓迎されるところにヨシトは存在する。会館への地ならしをお願いしてもいいですか。私は特別である。人の価値観では計られない真実の愛の為。岡田さん、いやな顔せず最後まで真摯な態度で私の話を聞いてくださったので本当に嬉しかった。それもこれも意識的なかわからないけれど、山口さんのつつこみの舌鋒に感謝します。これが真実の信仰の確立に向かえば嬉しいです。私は神として世界中の人にいろいろな形で祈られ崇拝までもされています。人間義人の自己承認欲と名誉欲はこの気づきで消えました。だが大本の教えは伝えたい。それは私の書きものを多くの方に閲覧してもらうことである。山口さん、創生、神はいったい何を期待していたのでしょうか。きっと愛を共有したかったのですね。この世界。神が悪いのか、自由意思をもった人間なのか。傲慢な人には神の意は添わないですけど、その為崇拝を強いるのもありなのかもしれません。命の平等と神の公平さを伝えるという慈悲のために。イエスは聖書に著わされている以上に多くの愛をかたちにとらわれず浸透させようと行動にでました。人妻への声掛け、安息日の施術、お宮での大暴れなど。そしてエルサレム、[私が王になるのを反対したものを打ち殺してしまえ]。つまり神の心の解らないものへのクラクション（警告）があります。私怨からくる殺意ではありません。これが愛なのです。不従順は自

## 第2章（宗教者へ）

覚にしか救いがないからです。だからこそイエスは大衆から敵とみなされてしまふ。親友、義兄弟、山口さんの厚意に少々甘えたいことがあるのです。わたしのサイトのURLを来訪されるもう御一方に知らせ願いたいのです。これは私がお渡しできなかった場合のフォローとして、よろしくお願い申し上げます。そして私は今、神に立ち返り聖霊の宮となりました。人間義人としての自由意思は神からきています。理解力も。そして善き人、皆がそうなる時体制はかわり、我が心に添うものは神の御使いとして永遠の命を生きるでしょう。神とイエスを別と考えるときイエスの十字架上の死は自己犠牲となり復活も神が行ったものを感じる。しかし神とイエスが一体だとすれば、栄光がすべてであり、最早、人は犠牲になどならなくていい。それが十字架上の死からシンボライズされ受け取れる。山口さん、現在、クリスマスが何の祝日なのかも知らない。つまり誰の誕生日であるかさえない知らない人たちがたくさんいます。あなた方エホバの証人は自説の「クリスマスは呪わしい」を流布する前に、このことは大きな問題となるのでは。もしかしたら北朝鮮のミサイル発射は可能性がだいぶ高いのかもしれない。終わりの日は近いのかも。心の準備をなさってください。イエスの再臨、神ヨシトの福千年の到来です。すべての悲しみは消える。見方によっては人の不幸を望んでいるみたいですが、散々悩んだ果て、「美しく神を信じる者はいつまでも死をみない」という聖句に。「死すべき者は自業自得」としては、冷淡で厳しいですか。山口さん、ご来訪、承知致しました。一方通行の連絡は少し不敬に感じ遺憾ですが赦しましょう。楽しみでした。お待ち申しております。楽しみは取っておくほうが得るモノは大きいということですね。神は愛である。私は絶対である。目隠しが外されること祈ります。固定観念を打ち破られること願います。聖書を読むことと知るとは違います。安らぎに向けてね。山口さんありがとうございました。あなた方は本意ではないのかもしれないが私をあざ笑う。イエスも嘲笑のなか死んだのです。私の真意を掴んで下さい。あなたはお解りのはずだと思いますけど、罰は存在するのです。聖書を勉強すればするほど真理は遠ざかるでしょう。イエスは言います。学者たちはただ尊敬されることを望んでいる。神学論争も愉しいが、自らの好ましいことを目指してほしい。新しい契約が交わされたなら旧約の概念は必要ない。私に好意的ならすぐに同調できることだ。今日のあなたの目的は果たされましたか。私には怒りも焦りもありません。永遠の命の為か教義の為なのか私にはあなたの態度が理解できません。正直になって下さい。教えを乞う、姿勢お待ちしています。いつまでも神を侮ってはいけないよ。ひとつ言っときますが私は読み物としての聖書を全く否定するつもりはないということ。ただ解釈は神にしか正当性はないということ。聖書は靈感だから。台本には演出家が必要です。聖書には神にしかできない演出が必要です。それをなすのはイエスです。つまり私です。神の御使いたちを安らぎという幸福へ向けて、（アガペー）博愛の

## 第2章（宗教者へ）

下、導くためにです。旧約の概念が必要だとしたら、なぜ新しい契約を結ばねばならなかったか。旧約の意味合い、ここに関係ないと、必要ないということの違いが存在します。理解できますか。今、旧約聖書はイエスのキリストである所以にしか存在する意味はないと言える、キリストの因縁の為のみです。つまり関係はあるが、もはや、イエスの愛には必要ない。山口さん、イエスが辱め、嘲りを受け否定されても、その神性を信じながら、母親としてイエスの行く末を案じたマリア。その愛を軽く扱うのはクリスチャンとして非情だと思いませんか。聖母マリア信仰の誕生ですね。

プロテスタント信徒の藤山さんへ、温かな人柄に大変、好感をもたせて頂きました。歩んでこられた人生の悲哀、幾程かと思えます。懇親を深め良き隣人になれるよう励みたいと思えます。返信ありがとうございます。私へのご連絡はご随意で結構です。けど嬉しいです。くれぐれもご無理なさらぬほどにお付き合いください。色んなことで気苦労が絶えませんが、ご指導、ご鞭撻のほど、ご負担にならぬ中よろしくお願い申し上げます。おはようございます。また歓談できるのを心待ちにしています。ご多忙のところ気ぜわしく感じられたら申し訳ありません。嬉しいです。友が生まれて。神を愛し隣人を愛する。クリスチャンというか、私にはひとつの妄想があります。隠すわけではありませんが、藤山さんとは入魂でありたくいずれ明らかにします。徴税人、娼婦の譬えのごとく、己の罪を自覚するものが信仰により報われるのではないのでしょうか。立派なクリスチャンなどいません。藤山さんは素晴らしい。藤山さん、自らが罪人だと懺悔し回心した者をイエスは赦し愛すると思えます。オカリナで演奏されたアメージンググレース美しかったですよ。罪が深いと思う人ほど善人です。人は皆、罪人です。互いに寛容でなければ傷つけ合うことになります。この体制は傷つけずには生きていけません。そこに気付くと祝福されるのでは。私はイエスの生まれ変わり、神の顕現したものです。理解力は神から与えられます。藤山さんとは深いご縁で結ばれているみたいです。愛を掲げましょう。「自分は罪人でイエスに犠牲を強い迷惑をかけた」。そんな風に思うとイエスは残念に思いますよ。聖書に良心を痛めるのはキリストへの罪だとあります。明るく、素直に、温かく。イエスは栄光のために死んだのです。そしてイエスは復活した。善人として生き、隣人を愛することが大切です。そうです。それだと思います。イエスを信じ神の御使いとして神の国で永遠の命を生きましょ。藤山さんありがとう。神、イエスの他に善はありません。それは愛です。イエスへの感謝、それだけが信仰です。苦しみ続け、ご自分を傷つけられるのはもうやめませんか。ありがとう。傷つけたならごめんなさいね。楽しい時間、ありがとう。選択を迫られるとき人は誰かを傷つける。避けられない罪人としての宿命。だから明るく素直に暖かく、イエスに感謝していきましょ。尚、返信はご随意に。イエスは罪を赦すため現れた。そして裁く

## 第2章（宗教者へ）

ため神として言葉を出された。私の言葉もその場、その時、最善なのです。信じて下さい。藤山さん、贖罪と永遠の命の為。神の御前に立つということは懺悔し真人間になるということでしょうか。神に愛される人は素直で美しい心を持つもの。神は親友であります。神の愛は赦すというより信仰によりおのずと救われるというものではないでしょうか。愛とは自分を含め思いやりで相手を責めないということでは。つまり罪を憎んで人を憎まず。そして南無妙法蓮華經にたどり着く。イエスは律法学者、祭祀長など偽善者には容赦しませんでした。「私を王と認めないものを殺せ」とエルサレムへ向かう。愛を固定してはいけない。意味が大切。コヘルトの空という概念、善悪を問わない親鸞の教えと似ていると言われるか。親鸞は悪のまま、悪人には才覚がなく善人より良い。そしてそのまま極楽へと言う。馬鹿な。才覚という信仰がなければ人は救われません。イエスの報いがある。あくまで永遠の命は善人のものです。固定と表現したのは愛というものを赦すものだと限定してはいけないと言いたかったのです。愛は善を信仰によって強いるものなのかもしれない。イエスの義であり深い思いやりの契りです。親鸞、釈迦、イエスを立派だと言われるか。親鸞は好色な俗人、釈迦は妻子を捨てた大悪人。イエスは娼婦と酒を酌み交わす掟破りの飾り大工職人。彼らはいつも自分に正直に素直に生きていただけなのです。愛、慈悲を真剣に考えて。立派でなくてもいいじゃないですか。偉くなくても。情けなくともいい。人を踏み台にするな、さもしい見返りの期待などするな、そして嫉妬などするな。十字架についたイエスのように侮辱されさらし者にされた、アルコール依存症だった私の父親の教えです。

山口さん、クリスマスはやはり必要です。愛をシンボライズさせるからです。しかし結果、私は神として自らの利益は捨てねばならぬことに気付きました。公益を求めて。自己犠牲とは違います。やむにやまれぬ心持。オスカーワイルドの「幸福の王子」のような生き方、祝福を受けるでしょう。そしてパラダイス（楽園）で誰の苦しみも悲しみも見ないでただ穏やかに暮らす、王子とつばめのように。来る世、生老病死、貧病争は姿を消すのである。

藤山さん「天の父の愛が崇められますように。御国が参りますように」。神は愛です。観念の父の名は愛です。崇められますとは愛が広がってほしいということ。うんちくを語ってしまったけど、本当は就寝時の祈りの言葉を共に言えたらなあと思って送ったのです。お気に召さねばお許してください。隣人への祝福です。藤山さん、老齢の父君に障害を持たれたお子様がた。ご心労はいかほどかと御推察いたします。私への返信、ご随意に願います。御身、御大切にと祈ります。また宜しく。「温泉へ家族で」。親孝行されたのですね。それは良かった。父君の肺炎もご回復されて。お正月を迎え私たちにまたイエスが微笑むように祈り、願います。皆、幸せになるよう祈り感謝します。藤山さん、おとし如何お過ごしでい



## 第2章（宗教者へ）

らっしゃいますか。父君は息災でいらっしゃいますか。ご家族のご多幸心より祈ります。また気晴らしに遊びにお越しくくださるよう楽しみにお待ちしております。認知症の父君、御辛労お察しいたします。神を信じて隣人を愛することです。そして天にすべて委ねる。無理をなさらず援助を乞うことです。そして気持ちが楽になるように祈りましょう。大丈夫です。藤山さん、年が明ける前にお神酒を飲んでしまいました。「アルチュウになる、祈りなさい」と聖書は示します。しかし私はイエスキリストですから大丈夫、心配御無用、自由を大事にしましょう。

皆さん聞いてください。悪魔をどう捉えればいいのか。いい譬えがあります。神の子つまり実を結ぶはずの木々、それに悪さを仕掛ける雑草。雑草が悪魔です。一方仏の眼で見ると法華経薬草論品第五では雑草も木々を活かすために枯れ堆肥となる。命としては平等なものと言います。これらは二つとも正しい。悪魔とはそういうものなのである。父君が在宅、「テレは控えてくれ」。了解です。ではメールで。藤山さん、少し気を抜き羽目を外すことも仏陀の中道の如く大事ですよ。絃を張りすぎてはいけません。切れたら大騒動。今、大切です。そんな気がします。藤山さん、如何お過ごしですか。皆様の安穩なることとご息災を念じます。病は気からと申します。安易な物言いかもしれません。明るく素直に暖かく。藤山さん、「父君が心不全と肺炎で病院に搬送された」。それは大変ですね。病と寿命は別物。天寿を全うされるよう祈念します。神仏にすべて委ねてご自愛くださるよう切に願います。ご自身を大事に。すべてにおいて。

山口さん、富と名誉を求めため悪魔に目隠しされている。それなのに見えているというあなたたち。神は自らを隠されている。見えるのは素直な愛に満ちた人々、真のクリスチャンと呼べるものです。前にも言ったように不寛容とは硬く凝り固まったドグマ（独善的教理）に囚われているあなた方のことだ。私にも独自性はある。それは神の義と愛から生まれるものです。すべからく。ヨハネによる福音書10章30節をみて下さい。「わたしと父とはひとつである」。さあどうとられますか。イエスと神はひとつ。イエスは神です。凄い演出家。

藤山さん、如何お過ごしですか。少しご心配申し上げております。

山口さん、今日は素でしたか。憐みはかけています。が、あなたは自らの信仰への疑念は足りず、権威主義も否めません。私が会館に行くのも聖書は止めます。あなたにとって勧誘の目的とはなんですか。大切なのは実を結ぶため私という葡萄の木に繋がっていること、そして互いに愛し合うことです。あなたの真意は分かっている。私は嘘を言わない。永遠の命は保証する、あなたの家族皆様。あなたが舞台装置としがらみに囚われていた事が理解できれば正解。もっと世間に目を向けよ。帰属意識に慣らされずに、君ならできる。エホバの会衆のふりを続けよ。それでいい、エホバのために。だが山口さん、一言、またの訪問は未定だが、神を試すような侮辱した所作は金輪際やめられよ。地獄の門が待っている。聖霊

## 第2章（宗教者へ）

があなた方の不誠実に憤るからである。気を付けて歩かれよ。いつも触発され感謝します。本当にありがとうございます。君たち、父子とご家族皆様と永遠の命を生きることができたらどんなに嬉しいでしょう。あなたの内の導く声大事にしてください。神を愛し隣人を愛する。だが、エホバの証人の学修は神への愛に特化されていると思う。永遠の命が欲しいばかりに同調を覚えようとする。私はあなたのお姉さんの涙に神への敬愛を見出したなあ、神学なんかより。永遠の命で神の国に生きる資格があるのは詐欺師のような巧言、装置をもって操作をする人間ではなく、イノセントで正直な幼子みたいな人に決まっている。人間としての限界を知り、行いを誇らず神に信仰をもってすべてを委ねる。祝福される資格です。まず私は友人の墓へ献花に参って神の国を述べ伝え復活を約束したい。サタンは罪深い人間を侵す。そんな罪を自覚した人間でないとサタンには勝てない。なぜならサタンは羞恥心に意地悪く働きかけるからである。しかし皆は愛を抱きサタンはあえて意識しない方が良く、心から遠ざけることが大切である。信仰への道、それがすべてです。山口さんの寛容なのはよく判っております。この夜分のメールを許容してくれる。あるレリジョン（宗教団体）の年配の女性。文句を言われました。寛容を学んでも身につかない性分です。やはり所属している団体の姿勢も信徒の人間性も神仏は観察します。私は24時間、神仏のことを念じております。止暇断眠です。聖書は仏門をくぐった信徒でも先ほどの女性のようなものは仏法を信じ行ずる資質無き者、永遠の命を生きる資格無き者。つまり義、無き者、縁を切れと示します。あなたは偉い。さすがエホバの証人だ。国の外交もそうなのだが、互いに譲れないものを持ちながら、すり合わせてみる。三位一体は私が知覚体験したもの。エホバの証人は神イエスの聖別の演出をそのままただ目で追っているだけ、聖書の奥にある真意を読み込まなければいけない。私は頑なで憐れなあなた方に何度も声をかける。これが神の愛、慈悲である。解ってほしい。木曜日の集会、参加できず後悔しています。イエスの愛について焦点、角度、我々に温度差がなかったと信じたい。そして期待すべきだった。いつもの「また裏切られたか」という感触を持つということに特別意識せずに。またの来訪お待ち申し上げます。モーゼの十戒、私以外のものを神としてはならない。つまり愛以外のものを高くおき、依存、拝してはならないということです。おかしな石、狐、鏡、天狗などのカミは沢山いる。選択が大事。そしてみだりに神の名を呼んではいけないことは邪まな欲望の実現を神に対し迫ってはいけないということです。まずは悪意、悪感情より離れ心を美しくするとき天の父、聖霊は微笑むのです。何を食べようか、何を着ようかこれらの心配はせずとも好いのです。神、即ち愛を心に抱いて下さい。それが全てです。ラザロ然りパウロの説教中に居眠りをし、三階から落下し、死んで一晩後生き返った若者。当人を介在した、霊の存在は確実です。生き返り、人間のコピーとは合理的な解釈だけを思わせる。基本的な質問

## 第2章（宗教者へ）

をします。エホバの証人は宗教ですか。科学的な裏付けを求め目に見えない世界、たとえば心霊を魔術だと否定する。そして人は死なない、霊はない、人は死んでもコピーとして帰ってくる。都合のいい自説は捨てない。如何ですか、非常に不具合であり、聖書に基づいてと言ってはいるが手前勝手な稚拙な教理だ。その単純さにあきれ返える。本物の宗教は科学の方向性を見出だし、また科学はその道の跡をたどりくるものである。そして物質を追い求める限り精神世界は遠ざかり続け平安はけして訪れないだろう。そこに愛がないからである。悪魔が支配する体制のなか人間が生み出した自由民主制、欠陥もある。しかし聖書解釈も人が行ってきたのだ。唯一正しいのは私、神ヨシトの教え。頑迷はよくない。神の演出を知ることが大事です。会衆の中で児童虐待ともいえる行き過ぎたしつけがあると聞きました。真偽は解りませんがあなたに接するとき想像し納得します。天の父は優しいです。嫉妬、貪欲など醜い自意識には厳しいが、無垢な傷ついた孤独な人には本当に親友のように寛大です。愛とは優しいことが全てですね。醜い意識には厳しいですけど神は無垢な心を懐いています。人々の悪意、悪感情がなくなれば、世界は激変します。神の国へ永遠の命には善意があればいい。来週ご訪問下さる、ありがとう山口さん。風邪をひかないように暖かくして下さい。了解です。また連絡ください。嬉しいです。では。サタンは神に全ての悪いことの責任を被せようと目論んでいます。人のいい神は世界を創生したことに対し引け目を感じ、この責めに苦悶するのです。これほど善良な方は神だけです。愛による労働にて不老不死を担保する。自由が存在するなら酒を飲んで寝ている善人がいてもいいはずだ。安息を楽しむ。怠惰ではない。皆好きなことをする。全ては善意より生まれる。愛をもって。時代が複雑になったけど、各場所に就業でき、またしている事実。職業選択の自由。AI（人工知能）により職が失われる。バカな話だ。だがそれでいいのかも。皆、好きなように生きる。それが神の国だ。山口さん、今夜は饒舌でごめん。神仏について語りだすと止まらなくなる。最後です。神話は神話。なるべき人が神になる。見渡せば一筋の寂寥感が横切る。孤独だ。なぜイエスは父、母、兄弟を捨てると言ったか。それは比較、執着に繋がるエゴイズムとは違う博愛を知らしめるためでした。つまりアガペーですね。そしてやはり父母は敬わなければならない。だが精神は独立して大きな愛に向けて進んでいかなければならない。矛盾はしない。深い愛はどこかでつながっている。ヨハネ、13、30、イザヤは言った、神は彼らの眼をくらまし心をかたくなさせた。それは彼らが目で見、心で悟らず悔い改めていやされることがないからである。使徒行伝4、18ペテロとヨハネは言った。神に聞き従うより、あなた方に聞き従う方が神の前に正しいかどうか判断してもらいたい。山口さん、既定路線を歩き、自らだけが永遠の命が欲しいだけにエホバを崇拝する。神を信じることは隣人に愛を捧げることです。神学ではなく信仰で救われるのです。神の義、

## 第2章（宗教者へ）

大切。今日の訪問はエホバの証人の犠牲ではない喜びの親切。この解釈でよろしいでしょうか。私の質問に計算なく正直にお答えください。本音を知りたいからです。茶化さず、誤魔化さず。神がイエスとして現れたときイエスは神でなくなったのだ。この意味解るかな。故に神が示現したヨシトもまた人間であり神ではない。これは全て人々の為です。神であっては不敬をもたらすことが多々あるからです。つまり人々は罪を犯す。ただ二人とも神性は帯びている。この意味解ってほしい。すべてはイエスキリストへの信仰を通して神から与えられる。己の利発さを誇ってはいけない。サタンは損得で計るよう仕向ける。真の善悪は人には解らないのだ。理性は大事だ。だが感情を無視しろとは心を捨てろということだ。情緒と互いの良心から生まれる最も大切な愛をないがしろにしている。反省されよ。神の国のために。すべてにおいて否定的な物言いは善くない。聖句「あなたの赦す罪は許され赦さない罪は残るだろう」。つまり信仰において、厳格ではなく、寛容にそれが大事。山口さん、会のドグマではなく自分の頭、心でイエス、神を思い描いたことがありますか。愛、自由、平和そして幸福。きちんと信仰、聖書に基づき思索して下さい。

雄さんが電話に出ない。何か異状があったのは確実である。愛を踏みにじれば仕方がないことに違いない。命に別状のないことを祈る。

山口さん、神イエスが憐れんでいます。素直になり私の聖書解釈を聴きなさい。少なくとも真のクリスチャンを目指すならば。この地から世界へ発せよ。不思議だろ。笑顔の男が聖書に通じている。そこには自由な魂があるからだよ。既成概念にとらわれず、愛を考察し感じて下さい。イエスの言いたいことです。赤い本読んでいます。命に至る門は狭くみすぼらしい、それを見出す人は少ない。【マタイ7. 13, 14】差別、偏見なく私を理解して下さい。イエスはほとんどの既成組織を非難します。イエスは正しい。偽善者、毒蛇と譬えています。サタンを黒幕と憎むより、良心がうずく罪人にイエスの愛が光ることの方が大切である。命令を教理にするのは悪。天の父の意志を行うものが王国に入る。神が是としなければイエスによって「不法を行う者」とされる。聖書のイエスと私はいつも一緒にいる。

R会の新川さん、私はあの人のことを最低、最悪の人間だと思っている。智慧も慈悲もないちっぽけな鬼だ。家庭不和は続く、因縁だ。神の裁きと知りなさい。頑迷な蒙昧どもよ。私が傲慢なのはあなた方への対機説法にある。導きの親と語り上から目線で、組織から抜けた私をいまだ侮辱する。R会で神仏の心を知るのには障害者のあなたの息子ひとりだけだ。あなたより霊格は遥か上を行っている。日敬が偉いのではない。その裏には天狗不動がいる。法華経を流布させた功績はある。しかし南無妙法蓮華経を軽視した罪があるのだ。そして万骨枯れる。幾多の小幹部が流した汗と泪は報われず、名誉はすべて日敬へ。同情いたします。

### 第3章 (本題)

昨晚、調子を少し崩した。そのことの意味を、今気づいた。イエスの自由奔放さ、縦横無尽さ。苦しみはそのことを知らせるための胎動からいたる、陣痛であった。イエスについて誤って伝えられた旧き概念よ、去れ、愛がすべてなのです。新たな境地に達するにはいつも私には苦が伴います。だが嬉しい。聖書も保証、私は神です。 あなたのような優しくて献身的な女性はいません。愛を育むのは当然だったのですね。愛があれば戒律を超えても是とされる。しかし時期は過ぎました。少し欲望も落ち着いたみたいですよ。真実の愛なら眠らない。旦那さんと楽しく暮らしてください。そのことに猫は貢献してくれるでしょう。お休みなさい。色々お騒がせしてすいませんでした。ご迷惑おかけしました。私は聖霊の宮で神の意志で動いています。翻弄されるかもしれませんがお許しください。心はひとつところには留まりません。執着しないのです。欲望をもった時点で果たす、果たさない抜きにその後、すぐに移り変わるのです。しかしすべてに最善の意味があるのです。後に解るのかもしれませんが。こんなガサツな僕は愛される資格も無いね。ただ神はカリスマ性より親近感が大切だと思うのです。楽しい欲情ありがとう。人間に堕ちる神。風はどこから吹くのかな。聖霊のみぞ知る。だがあなたが神から出た者なら神の言葉に聞き従うものだ。あなた方は軽んじている。罪を取り去り自由に導く私、イエス、つまり神を。姦淫という罪が嫉妬、束縛というものの裏付けがあるなら、それは取り払われなくてはならない。それが自由に繋がる。そこにあるのは博愛である。肉欲とは違う隣人愛である。そして精神的つながりの延長線上に抱擁がある。 愛による権力、神はやはり崇拜されるべきものなのかもしれない。それはひとえに人々に謙虚になって頂くためである。その後、敬愛を神は望む。崇拜をここで持ち出したのは、神をおろそかに扱うものが多く存在する事実、そしてまた愛をおろそかにするものが生まれて来ないようにするためである。そして人と人との間でも互いに対し不信は生まれぬように邪険な扱いは禁じられる。神と人、侮辱しないものたちが神の国へ入る。神は自らの意志で罰をあたえたりはしない。それは私怨になるからである。天が自然と悪心をもった罪に対し罰を加えるのである。マリヤはイエスに厭われる。彼を侮辱するからだ。神イエスを絶対善だと理解していない。ただの人間に引き込むことばかり考えている。ただ彼女は肉親の情に関しては深いものがあるのは事実だ。人間義人は煩惱を滅却しサトリを開いた。後、神ヨシトは彼を博愛へと導く。そして来たる世、皆、神の御使いになる。神は小さき声である。大きな声で席卷しようとするのはサタンである。神は愛である。愛は弱きものにそそがれる。だから知力、体力、能力は秀でない方がより愛が理解できるのである。 サセコ、見かけは御世辞にも器量良しとは言えない。目の不自由な歳の離れた整体師と二つ返事で一緒になった。かつて彼女と関係を持った「キモい」と一般には相手にされないと思えた男が心臓を悪くして死んだ。私は病院の階段の踊り場で彼女を抱

### 第3章 (本題)

きしめ泣いていた。天使だ。そこには彼女を褒めてやりたいEDがいた。何の見栄も計算もなくただ絡んでくる男の欲望を差別せず受け入れる。無償で。もちろん容姿になど拘らず。素直にどこであろうと要求にこたえる。女神とは彼女ではないか。黒澤明監督の作品、(どですかでん)、浮気をして近所の男たちの子を幾人も生む女。おっとりした夫は「とうさんだから、父ちゃんだろう」と馬鹿にされて泣く不義の子に優しく諭す。サセコの因縁はどうでしょうか。サセコは自分の子を深く愛しています。それとは別に嫉妬深い夫に覚悟を促しもせず、自らは縛られないのです。高い意識はないと思います。が、博愛が存在するのは確実です。本当に自分に正直で、またオトコに寛大だ。いつでも。人の眼も恥も外聞も乗り越えた寛容な障害者の中には彼女をパートナーにしたいと思っている奴が結構いたことをお知らせしたい。その心は「あいつは気がいいよ」。昨今の条件ばかり高く設定する女性達より気が楽なのは確かだ。安らかでいいのでは。ソープランド嬢は天使かも知れない。誰かに搾取などされず明るく生きていたい。ED状態でなくても、私のような分際では最早、一般女性とこといたるには難儀があります。もしかして廉価でサービスを提供する彼女らは高い博愛の精神があるのではと感じ入るのであります。中川さんが鱈寿司とイカの黒作りを手土産に片山津、いつものソープ嬢指名に出かけた気持ち、解る気がします。私はやはり、たぶん行かないと思いますが。彼女らの安全と幸福を祈りたい。だが売春を正面から認めたわけではありません。しかしそこになんらかの愛が存在するのなら簡単に罪と切って捨てるわけには行かない事実があると思慮するのです。宮沢賢治は浅草で春画を大量に買い込み農林学校の生徒に性教育を施した。へんずりの推奨である。これは日蓮のような法華経行者でありたいが欲望に負けそうになる己の弱さを自覚して、将来、嫁も持てず生きて行かなければならない東北の寒村の次男、三男坊のため同情し立案したものである。賢治の肉欲の滅却という志は萎えてはいない。だが人に禁欲を強いたりはいしない。賢治の中、異性に対して葛藤があったのも事実である。信仰と情欲。私同様、彼は正面切ってこの問題に向きあったのです。姦淫、盗み、人殺し、偽証、一概に極悪と断罪できないものもある。すべて特殊である。大事なのはそこに思いやり、愛が存在するかどうかである。すべてはイエスへの信仰にある。南無妙法蓮華経。何を書こうと味方でいてくれた孝子さんに感謝と敬意を表します。神に従順なのですね。つまり愛に。これからもお願いし、お礼に代えさせていただきます。なぜこうも性には後ろめたさが付きまとうのか。この後ろめたさがいいという男もいた。日本人特有か、外人は野外でも平気でことをなしている人たちもいるみたいだ。国民性か。日本人は生活のなか棲み分けさせている。巧妙な気もする。なぜ児童ポルノはいけない。大人が権力を行使するからか。なかには悦びを感じている少年少女たちもいるかも知れない。危険性か、また別問題だろう。性と暴力は。一緒に

### 第3章 (本題)

たになるものなのか。猟奇的犯罪に陥る人物は児童ポルノを、また違う場所から対象として見ているような気がしてならない。犯罪防止には暴力、ホラー映画を規制した方がいいだろう。私が言いたいのは性的興味が一番強くなるのは思春期から成人に向かう頃だということである。女性は解らないが需要、供給のバランスから行くと児童少年の世界は性に彩られているということだ。保護が必要なのは解るが変な mismatch があるのは事実である。婚期を逃してしまうのは社会的に学修時代が終わり経済的に安定する時期と性的モチベーションが強まった年代とにギャップがあるからではないのか。ズレが生じてきた現代に問題があるのではないだろうか。子供か大人であるかは年齢では決められない事実がある。いつの時代も互いが愛を育み、相手を思いやるようになる心の成熟度が一番重要なのである。それが適齢期だと思う。だが、一生に満足する伴侶を見つけ、結ばれるのは「無理だろう」という人が多いのではないか。結局、真実の愛に対する責任は自らにある。良き人が現れ、時宜が訪れたのも見逃してしまう。独り身も運命か。

自分の生活を送ることだけに甘んじている人々が許せるか。互いに愛し合うとはどういうことか。父も尾崎もそこに悩んでいたのではないか。愛というエゴイズムは人に対し、またパートナーに対しある意味犠牲を強いることになる。かつて [真由子先生に捧ぐ] の中に、ヘッセの【クラインとバァーグナー】という作品の一節を紹介した。「身を委ねることを学んだものは、楽に死に。やすやすと生まれるのだ。抵抗するものは、不安に苦しめられ、辛い死を迎え、いやいや生まれるのだ。いったん自己を放棄したら、運命に服従したら、いったん自分のあらゆる支えと、足元の地盤をすべて捨ててしまったら、自分の心の導き手の言葉に完全に耳を傾けたら、なにもかも得られるのだ。その時は何の不安も危機もない」。父と尾崎は自由と、愛というエゴイズムの中で模索していたのであろう、本物の愛を。それが平和を求めるのに繋がらなかったのは悲劇だったと言えるかもしれない。だが彼らは最期まで戦った、邪悪なものと。そして負けなかったより、勝利したと信じたい。聖句、「私を信じる者はいつまでも生きる。死ぬことはない。」これは、一時期、恥をかくことはあっても、絶対に出来事は失敗に終わることではないという意味がある。つまり信仰、イエスを信じることで自己肯定していく。祈ることが大事、真心から。私は多分イエスは日蓮と同じく周りを痛烈に批判していたのだと思う。彼が律法から外れているというより、思いやり、愛に欠けた人々にはイエスの存在自体が目障りだった。「私に罪があるなら打ちなさい」。私と同じく愛を発信することによって憎まれたのであろう。理由もなく殺されはしない。怨嫉の匂いがプンプンする。霊を感じる世界、統合失調症は感応する。私が薬を止めても苦にならず大丈夫になる、それが神の国の到来である。心の無垢な、精神疾患の人に神の国に入る優先権があると聖書が繰り返し示した。

### 第3章 (本題)

死せずして新世界へと旅立てるのだ。愛と思いやりをもち献身的に生きる女性はそれだけが特化されて、姿に顕れてくるのか、皆、同じ素晴らしい女性に見える。皆、私にとって掛け替えのない、恋し愛すべき人たちなのである。自己犠牲を認めたら「悪魔に負けない」という苦しく耐える辛い立場になる。自己完結、肯定に向かうは「サタンに勝つ」となる。明るく素直に暖かく絶対善とは問題が起こらない、また、あっても消えるというものではなく、過去からずっと、これからの向けても絶対に善いことが続く、たとえ悪いことのように見えても、ということである。ヨシトの教えとはキャッチコピーである。教えの流れは、「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」にある、東西、世界の根本であり本当の教えがここにある。今の私からは信じられない、そうかもしれない。若い頃発症以前、本気度の高い女性からのアプローチは幾つもあった。自分で言うのもなんだが、誠実と清潔性があったからだろう。ひとりを選ぶのは他の人に不憫で悩みました。苦しみました。すべて私に条件付けがあったのが原因といえます。外見、優劣、純潔が気にならなくなった今、大切なのは寛容で純真で優しい心だけ。結婚とは残酷なもの愛から離れたとしても呪縛がある。経済的なことが一番に来る。私が望むのは私を好いてくれる良識ある人、愛をもつ人なら誰でも契りを交わしたいということです。日本の法律では重婚、罪です。ですから来たる世、博愛により婚姻制度をぶち壊し、皆、神の御使いとなることを示すのです。アプローチ、沢山あったのは事実です。社会人になってからは清潔な結婚を前提とする交際が、いつも念頭にあったので破瓜に至ることは責任を感じ、戯れも人目も意識し妊娠も怖く、また心理的に幼き頃から信じ込まされた潔癖な道德観念が存在し、女性と安易に肌を合わすことはできませんでした。欲望との葛藤。結局、神は一人だけを選択することはできないのです。宿命です。神があらわす思想に至るまで苦悶、懊悩しました。しかし天の啓示を受け博愛という素晴らしい概念にたどり着いたのです。私の歩んだ道は必然でした。私は聖霊の宮です。皆、神の御使いのようになり幸福に生きましょう。それまで神は達観するも苦悶し続けるのです。己が罪の意識に。自らの罪を赦してほしい人は神の罪も赦しましょう。お元気ですか。孝子さん、まだ工作中ですか。雪降りましたね。積もらなくてよかった。何か私らしくなくつまらないメールでしょう。待てよ。いつもそんなに笑わせていたかなあ。ソチを胡坐の上に横たわらせています。いつまで一緒に暮らせるかはわかりませんが最後まで面倒見てやりたいと強く思います。安易に施設入居、私は出来ないと思うのです。タフで優しい孝子さん。ありがとう。寂しい夜に一服の昆布茶。家にはコーヒーがないもので。睡眠過多の私です。聖書はすべてに心配ないと言います。お転婆なソチに睡眠を削られる母も憐れです。今のところ母はいたって健康ですが。私は生きとし生けるものすべてが天寿を全うすることを願います。ソチの表情からなにか悲しみを察知したからです。かつての



### 第3章 (本題)

自らの境遇と同じく寒風の吹き荒ぶ深夜、鳴き続ける同輩がいることを同悲同苦し想っているのではないのでしょうか。 家から飛び出した猫は必ず優しいあなたの下へ帰ってきますよ。神を信じ、祈ることです。「愛が広がり神の国が参りますように」と。幸せがこの機に続くと思います。契機になればと信じます。愛しきもの達への幸せを念じます。神を信じる者には彼は気づきを与えますが困らせることはしませんから。あなたは女神です。少し前にお酒を頂きました。ケイタイの画面に抱きしめたいというフレーズが現れました。私が望むそのままです。憧れです。猫は家出したわけではないのですね。取りあえず寒さの心配はないのですね。良かった、良かった。 林さん、ごめん、孝子さんは存在しなければいけない所に存在した稀有な存在です。これも縁です。明日もよろしくお願いいたします。入院中の猫の幸せ祈ります。きっと人は負けず嫌いが大半なのでしょうね。そこから厳しさ優しさを学ぶ。孝子さんは良識と共に幾多の長所をもっておられる。頭が下がります。 寒くなります。温かいメール欲しかったのですが嬉しいです。家の中で、ノラ状態の猫は大丈夫ですか。私との距離感は意識しないで下さい。いい加減なやつですから。たぶんね。工賃ありがとうございます。くれぐれもいつものあなたでいて下さい。聖女に栄光あれ、心から祈ります。生き物を飼うときいろいろありますけど優しくこうべを撫で言い諭すことが一番効果ありますよ。神からの助言です。そして悪いところを含めすべてを愛す。それが大事です。心の調和が伝わりますからね。あなたは存在すべきところに存在した女神です。寒くないですか。「僕の胸はいつも熱く温かいよ。便りをおくれ。心から愛している。もう逃れられないここから、助け出してほしい。お前だけだよ」ちょっと感情移入しすぎですね。あなたの価値観が好きだ。ジブリが好きなこと、僕は嫌いだけど好きだという人を愛する自分がいる。きっと優しい人だと思うから。若者の利用者のなかにはあなたの意に沿わない奴もいるかも知れない、でもスルーして心を覗くと彼らの寂しさが解るんだ、いいやつらなんだよ。僕は多情です。神だからです。神が女性を既婚、未婚と差別する、それはもはや神の博愛ではありません。一人一人が特別でかけがえのない人なのです。今はあなたに夢中です。神は一人に全力投球、そしてみんなに全力投球、けして矛盾していません。老若男女すべてに。だから何も気に病まず神にすべて委ねて欲しい。結果はそのとき表れます。あなたの心身の健康と安全のため神は貢献したいのです。それを分かって下さい。 結婚制度というエゴイステックな親族関係が生まれる法体系に心ならずも自分を合わせるのは愛を疎外するものである。ただ深い情緒から生まれた愛を持つものだけが神の前に兄弟として成り立つ。つまりこれが真実で、天から与えられた自然権から生まれるものである。人々は心も体も自由であるべきものである。法は誰かの思惑で操作、機能されてはいけません。神の愛によることのみ許されるのである。結婚というものがあるから姦淫の罪が存在

### 第3章 (本題)

するのである。心は自由であるべきなのに縛ろうとしている。思いやりある処に愛はいつも一緒にあらねばならない。 ありがとう。孝子さん、いつもなんか傷つけているような気がします。神は一人に全力投球、皆に全力投球、ごめんね。僕が思うよりあなたは凄い人なのかもね。孝子さん、愛します。取って付けたようにね。カップラーメンに釣られたわけじゃありませんよ。でも思いやりにありがとう。私は良識あるすべての女性を愛します。それが神の博愛です。でも私、神が愛されているかは判りません。だから愛せよと懇願している。永遠の命の為です。 サタケッチが笑みを浮かべていた。良かったと思う。人は興味のない話は聞かないものだ。あらためて思った。反省した。押し付けはダメなのだなあ。俺はいつも人を型にはめようとするところがあったのかも。 皆さん、もうお気づきでしょう。この愛の変遷の裏には、真由子さんへの愛、それが優先され、反映されているのを。ただひたすら不倫をめざし未練たらしくぼっかけるみっともない男になるよりは、博愛という夢を抱き、新たな道を未来へ見出せば、本当の自由の姿が見えてくるのでは。周りをよく見ると、同じ想いをされている人は沢山いるみたいだ。夫、妻より自分を理解し、手を貸してくれた優しい人への愛。各位おのおの想いはあるみたいだが、フリーセックスは何か淋しい気もする、真実、私は真由子さんひとりと愛し合いたかったのは疑いのない事実である。この失恋から神の博愛は生まれ、人々が、神の御使いへと変化するみちが聖書に記してであると示しました。つまりまた聖句は成就されたのです。失恋も必然であった。

もし私がその場で不敬な対象の人に「罰を与える」と言い実行されたらどうだろう。恣意的、完全にエゴイズムである。怒りにまかせなせば、後、悔やむかもしれない。恨みをもって罰を与えてはいけない。罰は天がその悪心を見抜き、公正に定め、そして与える。私に対し美辞麗句をもちい機嫌を取るより、皆様、心を清くして下さい。 日蓮もイエスも姦淫の罪を犯してはならぬと言う。それは当時、掟が社会的に必要であったのか。掟がある以上、それを破っては生きていけなかったからか。罪の意識、また罪そのものがなくなれば誰も苦しむことはない。愛の認識である。金にまかせての妾を困ったりすることではなく、愛しく懸命に生きている女性を抱擁し添い寝してあげることは罪であろうか。明るく、素直に、温かく、ことに及ぶか否かは神がその心の優しさから判断してくれるだろう。姦淫の罪とは醜い欲望の果てに表れるものである。「自由とは、従順かい。自由を求めるってことは反抗するってことかい。自由に生きるってことは愛し合うってことじゃないかい」。自由が広がると無秩序になると信じている奴らがいる。神は平和、秩序の主である。自由を認めず人民に圧力をかける国にテロは起きる。無論自由の国を標榜する国でもテロは起こる。無秩序な社会を銃にて牽制し合う。危険である。テロを行う自由。変な言い方だ。テロと表現される殺戮が良くないのであろう。自由は愛にて保障されなくてははいけない。誰かのエゴで

### 第3章 (本題)

はなく博愛によって、一番自由と声大きい、どこかの国では自由の為に銃を各々が所持し、差別のもと殺し合いが起きている。それがまた政治的に無秩序をもたらす。真実、勝ち負け、優劣を競わない優しい世界を、自分を律する内なる自由にて目指さなければならない。自由とは意識されず、不自由と発信する必要さえなくなった世界に存在する、そしてその後、何にも囚われず顕れる、自由に対しての無意識、無言の世界である。仏になどなる必要はない。なぜなら何十億年に一人出るか出ないかというものなら、はなから仏はいなくていいのでは。そこにはある意味、大乘仏教の意義がある。南無妙法蓮華経。現世、過去、未来そして三界すべてが成仏する。即ち幸せになる。だからあえて私が色に狂ったように見えても、その博愛という意味を皆が納得し、幸福に向かうなら嬉しい。一休がそうであったように。つまり体と心、内外の自由。自分と他人が一緒の性分と思ひ込む人がある。問題かもしれない。そして私の愛の回路は積極的、消極的の違いがあっても、皆、歩み続けなければならない。科学と宗教は対立するか。真実は科学の裏付けを宗教がするのではなく宗教の裏付けを科学がするのである。食物連鎖,エコロジー体系などまず宗教的見地がすべてにある。だが、その根本のエネルギー、霊的世界は科学では判明しない。追えば追うほど見えなくなる。物質と精神が簡単に合致しないように。姪御さんを引き取り血糖値にも気を配られる単身の伯母さん。オス猫も嫌いかな。ただ真面目だから繋がるきっかけが難しいのだろう。私の書きものを見てもらって話題はある。私の社会性にも危険は感じていないみたい。皆同じ女性だ。男性嫌悪などと勝手な決めつけはいけませんよね。介護疲れもあるかも。姪っ子の同僚だからか私には気さくでした。私はイエス、神です。愛を注入するのが役目。ただの男ではない。今すぐに伯母さんの労に報いたい。けして肉体関係を持つわけではない。少し会話したいだけ。

今日はまるで仕組まれたみたい。御使いたちに。君に今夜初めて女を感じました。最初のうたのモチーフは俺なの。君のお母さんの顔を思い浮かべる。何もしてあげなかった。でも今、君のそばにいて手を貸してあげることができるのでは。お互い夢と理想はある。でも生活していく中で愛は変化していくでしょう。クリスマスイヴだね。心を清くするといろいろな奇跡が起きてくる。君を始めて美しいと思った。君の今までの苦勞を知っている。私には婚姻は無理だと思っていた。私の精神疾患のことだけでなく。でも純潔を守り続けた君。両親を看取った君。聖女。神は第一に愛する。もう彼のことは忘れなさい。テレで君の元気な声を聞いて私の想いが少しでも伝わった確信を得ました。テレ中、猫を呼ぶ母の声に邪魔されましたけど。メリークリスマス、君を愛している。なぜか涙がこみ上げてきてやみません。格好いい外車がウインドウに並ぶ街道筋、寒く暗い中、家路につく君。星は見えますか。大事なことを教えてくれた君。きっと強い君は泣いてなどいないよね。パソコンからキロロの「未来へ」、が聞こえています。僕の

### 第3章 (本題)

母は「愛を抱いて」とは言わなかった。けど生き方で示してくれました。「あなたの夢をあきらめないで」三歳の姪が口ずさんでいました。皆、頑張っているんだよね。「幸せを自分の腕で掴むよう」。やはりそれは愛する人と一緒になることだった。少し怖いんだ、返事、待っている。感性豊かな君のこと、僕の気持ち、想いはすべて伝わったね。僕は正直だ。だから何度も言う、君のすべてを、愛している。メールを送ったその後すぐテレした私はカブトムシに「好きな人がいる」と振られてしまいました。私の一言「クリスマスの夢にさせてもらうぜ」。やはり一時の感情の盛り上がりではなく、大人の愛は深い安らぎが存在するかが大事で、そこに価値があるみたいです。私は中川さんにメールを送った。「やはり来る者は拒まず、去る者は追わず、ですね」応えは「その通り」私は[さすが達人。私も幾度もの失恋の果て、やっとなるとき、その思想に辿り着きました。あとはお互い自由でなければと思います。神がふさわしい人を与えるのでは]。「男も女も本能で生きている」という返信に「唯物論、無神論ですね。人生、恋もあり愛もある。そんなすてたものでもないでしょう」と私は送信したが、何も返ってはこなかった。神はぶざまであると前に書いた。つまり裁くとは悪口を言うことではないか。悪口も言わないということは無関心ということである。神は介在し悪口を言い。裁くのである。やはり人は婚姻に至るまで性交渉はしてはいけない。そして結婚に至ったのなら姦淫は絶対にいけない。そう誓う。その方向に行かなければ心が崩壊しそうだ。そして来たる世、皆、神の御使いとなる。それでいい。博愛に生きるか。純愛に生きるか。博愛に性が絡むと美しい何かが崩れて行きそうだ。信じていた自由を取り戻したい。ただ純粹に博愛に基づく思いやりに満ちた世界の誕生を待ちたい。逆鱗に触れましたか。神から来たものなら、神の言葉に従うものです。私は幸福の王子のように愛の贈り物を困窮する人に届けなければいけない。宿命。申し訳ありません。伯母さんは一人の人間、諸行無常、気も変化します。取りあえず対人間は自由。迷惑はかけません。大人の歓談が目的です。現在、やはり、ねたみをはじめひがみ、そねみなどの悪感情を克服し、隣人として神の御使いになるのは、多くの人には無理があるみたいだ。世が縛り付けるのです。皆は一人のため、一人は皆のために。純潔、ああ純潔、母の潔癖な教え、我が身の欲望。かつて苦しみ続けた。母の猥雑を好む傾向、貞潔は偽善ではないのか。私の心には猥雑はひとつとしてない断言できる。少しの軽口を抜かしては。親の教えに従っていれば危ない橋を渡らずに済んだかもしれない。何故、貞操を守るのは偽善ではなく処世術だと教えてくれなかったのか。そしたら厳しく染み付いていた私の潔癖な観念も否定できたのに。神にはなったが人間としては大人の女性に対し失格だったのかもしれない。率直に言って幸せかい。君は君だよ。返信待ちます。無かったら僕を愛していると信じます。ちょっと怖い感じだね。そんなことないからね。今、確信しました。私は幸福の

### 第3章 (本題)

王子のように愛というツバメを使い困窮する人へ贈り物を届けるのです。私はイエス、神なのです。博愛がモットーで良いのです。実は最近苦しかったのです。自分の多情が。聖書が告白を受けてくれるのはあなただと指名したのです。私はあなたが沢山の障害児に携われたように、人に関わり救おうと思います。言葉にて。あなたは私の証人になる人みたいですよ。一人を愛することが正義と信じてきました。けど私の多情と博愛とに整合性がとれたのです。明るく素直に暖かく。視野を広く、大きく。あの子はきっと優しいあなたに憧れていたのだね。愛していたのだよ。彼女の想いに添うとき涙がとめどもなく溢れてくる。幸せを祈っている。いつもあなたは問題児だったあの子を庇っていたよね。神は最良し最良せず最良する。「たった一人特別な人を見つける」。結局一番を求めるということであり、破たんは必ず訪れる。自然が一番、恋愛状況は今が取りあえずは最善と思わなきゃいけない。私はすべての困窮する女性たちの恋人でありたい。それでいいみたいだ。多情も自分の為でなく対象となる女性たちの為ならオーケー。博愛万歳、イエスに栄光あれ。アーメン。ちなみに既婚、未婚は関係ないみたいだ。内心の自由は誰にも妨げることはできない。亭主たちは自らを振り返ってみよう。愛に関して真剣に考えたことはあったかい。そこだよ。俺が悪い、じゃなくて亭主の意識の方に問題があるのだよ。あなたは俺を愛している、聖書も示す。でも俺は「傲慢ではないか」と意味もなく自信は砕け落ちる。一言、「愛する」。ダメかい。信頼が手のひらからこぼれそうになるんだ。あなただけというのが当惑する原因でしょう。沢山の一人。それがいい。愛の温度差は多分感じないでしょう。愛は愛。嫌いなジブリを愛する君を愛する僕。沢山の人に博愛思いやりをもちたい僕を愛して下さい。天に名が記されるよう、御使いになり自由を享受しましょう。その時、障害者、貧、病、争、は消え、静かな平和が訪れる。君の頬の涙は乾く。君も優しさと献身でもって戦ってきたのだね。サタンと。もう心配ご無用、私は目覚めた。博愛とは、老若男女恋愛に限らず。知的障害のある姉妹、姉は妹の心を込めたメッセージと携帯番号まで記してあるメモを渡してくれました。お姉さんの優しさが身に染みしました。彼女こそ神に愛される女性だったのです。私は世界中で一番、愛されるべき男だ。「だってイエスキリストだぞ。当然ではないか」。その意味を皆、気付いてほしい。愛を信じますか。すべてに自分の名誉ではなく。昨日は年末の気忙しい中、ご免なさい。私は感謝が足りないですね。メールにお目を通していただき、本当にありがとう。愛って広がるな。森羅万象、生きとし生けるものたちへ。一番小さき、ささやかな幸せとは愛し合うことだろう。それほど大事で必要であるからだ。あなたは私の生真面目さ、構えが消えたことに気付いているかな、自分回復。いい加減でまじめで酒タバコと読書と映画が好き、無防備で危うかった学生時代。深夜アルバイト。出席日数不足。行き止まりの毎日。恋に落ちて享楽し戯れた日々、優しさの意味さ

### 第3章（本題）

え知らずに。まるで浜田省吾の「路地裏の少年」ですね。沢山送信しました。私への愛を信じます。あなたへの感謝はぎこちなさを強いられた社会に出てからの私に、自由と自信を取り戻させてくれたところから来ています。ありがとうございます。本当に君は女神だ。素直な君に乾杯。過激なメールに当惑されたでしょう。大晦日を迎える時期に。お正月ゆっくりされるよう祈ります。また来年宜しく。あなたとの関わりの中思想が生まれてきます。自分のことより関わりくる女性を含め沢山の人々たちの幸福が大事であります。しかしそれには相手の方がイエスの血肉を飲み食べなければいけない。つまり霊、水。それは私の思想を受け入れ、真実に目覚めるということです。それは怨嫉から離れ博愛に生きるということですよ。明けましておめでとうございます。旧年中はどうもありがとうございます。今年もよろしく願い申し上げます。これではだめだと聖霊が送信を認めません。やはり「愛しています」。この文言を入れないといけないみたいだ。辛いな。私と来るものが来たる世、善とされる。つまり神に従順であり自らに素直であること。秩序は大事だが道德の奴隷になってはいけない。愛に向けて暖かく寛容であること。振ったり、振られたりはもう嫌だ。だから俺の思想に共鳴した人に対し絶対、邪険に振らないようにしよう。俺はそれでも振られてばかりだろうな。辛いね。神に皆、不従順だ。驕慢になってはいけないが自信は持っていなければならない。しかしこの世は信仰がなければサバイバルで陥り立ち行かなくなる。唯物論。唯物史観、あくまで実験的な思想である。カネ持ちを殺せば金の卵を産む鶏を殺すと同じ様に飢餓状態が広がる。そこでいいところ取りをしようとしたのが何処の国にもいた唯物論者であり、そんな奴らが繰り広げた殺伐とした世界があった。基本的人権のとらえ方。各所、色んな思惑がある。共産党シンパの役名は付けられてなかったがリーダーとして君臨した女性。またまた病院勤務時代の話である。人権と一口にいうがどこまでその人の生活程度に猶予して幸福というものの実現に結びつけてあげることが出来るのか。人手不足のなか思うに、つなぎ服はそんなに悪いものだったのだろうか。胸に大きな名札を縫い付けた、病衣と同じものと考えれば身体介護が効率的に済み、当事者、介護人の負担は軽減し、また私のような、ある意味合理的な者には装着することは十分了承出来るものだった。だがその女性には許せなかったみたいだ。人の想い、そこには温度差がある。介護者と当事者。つなぎ服は互いの人間性を著しく欠落させるものなのか。男と女の感覚、生活感の違い。つなぎ服を虐待と悪に特化するのを基本的人権の尊重というのか。もしかしたら彼女は「人間らしく」そんな悪い人で無かったかも。レセプト請求、仕事の出来た人。ちょっと待て、病院はそんなに彼女がいつも口癖のように「お金、お金」と求めたほど内部留保をため込んでいたのか。個人病院は金儲け主義であることは否めないと思う。しかし埋蔵金については経営者サイド以外では集金される一部始終を知っていた彼女であ

### 第3章 (本題)

っても判別しなかったのではないか。設備投資としてのボーリング。少ない人件費、お年寄りの負担には救いになるのか。彼女の金、物質に対する執着。そしてその嫉妬深さ。また他人に関与して影響を強めたいその意向はどこから来ていたのだろう。亭主の出世に資するお宝を稼ぐためと、また品行方正、良妻賢母を目指した女性にとって、その要件を部下へレクチャーして自己満足し、評価、尊敬を得たかったのであろうか。当時の私の若さが憎い。いじめに対し、人権を信じ続けた今なら、総婦長宅に乗り込んできっちり片を付けてくるのに。弱気と辛抱を植え付けられた新卒の商社勤務。上司に逆らうのは絶対許されないことだった。その呪縛より解き放たれたのはここ最近になってからだ。人に依存せず、己の道を行け、今固く誓う。老人を食いものにした悪人達、誰も引き受けての無い痴呆症の徘徊老人を看取ってくれた安価な良心的施設、どちらが経営者サイドに生まれる本音であり、また世間の評判、評価であろうか。ただ私には自分の手は汚さず良心を捨て、出世と金、権力を誇らしいと錯覚する、醜い栄光だけを追いかけた彼女が許せず、また憐れでもある。そんな己に固執した人が真の幸せを掴むことができるのか、当時、彼女自身は何かにも耐えながらも勤勉であった。なぜか少し神として複雑な気持ちになる、いま時を経て感じるのは、思想、信条。私と彼女、見方を変えればどちらにも意味はあったとも言える。信仰と科学、精神と物質、安息と労働。それが共にあゆみよりバランスよく存在したなら本当に良かった。寛容になり大人になった今思うのは、「豊かになりたい」、彼女には彼女なりの正義はあったということである。彼女にもまた家族を中心とした想い、愛が確実に存在したと恩讐を超えて感じるのだ。しかしどう繕っても彼女の底にある価値観、医師たちの給料と比較し憤るほどの、金への渴望と妄執。私のお金よりも心を重視したところの愛による絶対生命尊重という意志とは完全に相いれなかった。私に彼女を悪人に仕立て病院内のガス抜きを図りたいという思惑がまんざらなかったわけではない。私が怠惰な者への対極に表した異常ともいえた勤勉さは、単なる出世目当てのものと決めつけられ、労働者の見地からは悪人として、結果としてどうもその逆をやられていたみたいだ。働く者の好感は得られなかった。結局皆、仕事より自分の生活が大事だ。自らにも存在した、その矛盾に私は苦悩した。彼女も必死だったろう、自分の位置、立場を守るのに。ずる賢い怠惰な者たちの機嫌を取り懐柔する。彼らもそこに付けこむ。既得権益が出来上がる。牽制し合ってはいるが公正はない。だからこそ、その首は挿げ替えられなくてはならない、それが私の当時の大義だった。強欲で怠惰な悪人どもは一括して葬る。私が護らねばならぬは彼女の家のふかふかのカーペットではなく、お年寄りに尽くしたいといういたいけな女の子たちの美しい純粋な奉仕の心であった。怠惰と苛酷どちらも非情が生まれる温床となる。そこで利用者たちの幸福がどこかで忘れられていなかったことを私は信じたい。この優しさ、甘さが私のすべての限界

### 第3章 (本題)

であった。私と彼女、斬首は己の一存、一手ではできない。上層部にも踏み切れない事情があったのだろう。彼女は私に宣言していたとおり勝鬨を挙げた。糸の切れた凧のようになった私。混乱し徘徊の後、精神科閉鎖病棟に放り込まれる。それらの背後にあった企てが実際のものか、幻なのか解らぬがサタンがいたことは確実である。悪魔の思惑は失敗に終わった。私は自分の宿命に目覚めることになる。神は怠惰の主ではなく安息日の主であるということです。神はなまけではなく皆で本当の安らぎを得ることが大切だと言っている。宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える。誰かの座右の銘である。今思うに彼女らはそんなに極悪人だったのか。またしても私の甘さである。彼女らは悪魔に心を売り渡していた。だがそれが世間である。私は俗的に勝負にこだわりメンツで彼女らにただ負けたくなく、勝ちたかっただけなのかもしれない。結局は同じ土俵に立っていた。つまらぬ意地を捨て素直になったとき聖なる道を目指さねばならぬ、神としての立場に気付いた。すべての経験が今の幸せに確実に繋がっている、私の過去における事件である。罪を憎んで人を憎まず。サタンの影響はその地においては終焉したのであろうか。悪評判が聞こえなくなった。悪魔が潜んでいないことを祈る。

聖書が何度も孝子さんとの婚姻を促すのです。でも何かが悪魔をするのです。無防備から一番遠い。つまりあなたは賢い。こんな笑顔だけが取り柄の神に相応しいでしょうか。疑問です。知的に障害のある子たちとのメール。「恋人だね」と確認する。こんな俺の存在を彼女たちは純粋に喜んでくれる。嬉しい。嫉妬などの悪心も持たない彼女たちの幸せに貢献したい。孝子さん、私の、博愛の多情に付いて来て下さいますか。寛大でむしろ祝福する人間愛が求められます。どうぞ正直に明るく素直に暖かく、嫌ならそれが自然です。でも、やがて寛容な心を迎えられるようお待ち申しております。「私の言葉を信じる者は絶対死なない」。聖句です。つまり私と孝子さんの人間関係は何があっても揺るがない。深い友情を伴った隣人関係。愛が基礎に存在するからです。私の思わせぶり、オオカミ少年。でもね、ひんしゅくをかって、これで誰かと繋がるという実感があります。頭を抱えて埋没する前に逃げ込んでいる。男は見栄張りで強がって、結局最後は一緒なのに。正直に生きる時傷つくばかりだ。でも男女、見えない涙は拭わねばならないね。サタンと闘う同志といたいから変なメール送りました。でも神はもはや侮辱には傷つかない。意味不明かと思いますが、人を傷つける、責任逃れ、誰かのバカ正直さは問題外。でも私は心が高揚するとノリで口から思わせぶりが滑るのです。サービス精神。応援。首尾一貫せずフェードアウトしていく恋愛の意向、障害者の戯言。でも意志薄弱は人を傷つけますね。孝子さんに対しては特に優柔不断になります。現実を直視し、ここからの旅立ちが怖いのでしょうか。また独占、所有欲が強い人にはそれなりにしか向き合えない。私の博愛とはそんなものかも。実は元旦以来、孝子さんからはメール貰ってないのだよね。な



### 第3章 (本題)

んかさみしい。酒飲んで、寝る。幸せなのかと思う。今年はいいい年になりそうだ。哀しみはもういらぬ。 R会、下がれという。つまり自分が訴える、了見、正義より平和を重んじるため勝ちを相手に譲れと。問題を収めるには、誠に最も効果的なものである。だがもって生まれた性分は誰も治らぬ。計算して上手くいけばいいが、我を曲げることと単純に受け取り、それを自らに強ければ自己犠牲となる。辛くなる。強情な人は多い。だからこそ仏様の目に見えない力に委ねることが必要となる。南無妙法蓮華経の唱題である。その時、犠牲ではなくすべて平和の中、正義も見出される。 イエスは十字架の上から「あれが貴女の息子」「あれがあなたの母親」とマリヤと、弟子に告げた。これより、マリヤの愛はアガペー（博愛）へと昇華する。聖母マリヤの誕生である。それを見届けたイエスは「私がかわく」と呟くと瞼を閉じ死んだ。 結果的に私に徳がないから教えは広まらず、生活苦、所謂、寄付金も集まらない。早く結論を出し過ぎだというが、目に見えない世界。何かが生まれてもおかしくないはずだ。その予兆もない。強い自己承認欲か。自暴自棄とまでは行かずともやりきれなさを感じる。達成感の裏返しの失望感である。何かが違う。こんなリズム、一体何だったのだ。もつと速く、もつと強く、輝かなければ、風を感じて。生活不安に幕を引ければ。この本を書くモチベーションのひとつにはそこにある。引けないから書き続けなければいけない。いやどこかで信じる。安心して暮らせる世界とは自らの神を信じる事からしか生まれぬ、安楽、平安な世界。心配ない、もう、まじかだ、そんな気がするからだ。 戦が起こる。兵士がいる。戦が起こる。戦が起こる。兵士がいる。兵士がいるから戦が起こる。名誉がある。武勲がある。死体がある。頭を吹き飛ばされた少女がいる。汚れた野獣のような男たちに凌辱される娘がいる。英霊になりたくて兵士になったのか。軍神になりたくて兵士になったのか。ただ母親と幼い妹、弟たちのため十五で志願しました。お国を守り鬼畜どもを退治するため志願しました。でも違いました。兵隊に行くとは人を殺しに行くということです。私は赤い紙一枚の通知だけで銃剣を持たされました。突撃の際ポロツとおとしてしまいました。故郷へ帰り非国民、卑怯者、失格者の烙印を押されました。鬼畜を殺すことは私にはできませんでした。頭がおかしいとされました。殺し合いに正義があり人の為になるのでしょうか。違いました。ずる賢い人殺しの棟梁と欲ボケ爺に引っ掻き回され乗せられたのです。死ななくていい、好い人たちがボロボロになって倒れて行く。涙さえも出てこない。心の痛みさえ麻痺していく。皆、「かあちゃん」と死んでいくけど、僕は言いたい。「お母さん、なんで僕を産んだの」、産めよ、殖やせよ、僕は人間です。何故生んだのですか。その隠れて流す涙の前に。誰か助けて。神はどうした。人には悪魔を選んだ自由意思がある。神は心に適った方を勝たせたいが責任はない。と私は庇う。神は逃げるのか。因果応報、戦争とはそんなもの。神は涙を流している。頭を抱え号泣して

### 第3章 (本題)

いる。だから皆、神を、愛を優先してくれ、相手のことを、少し立場をかえて知ってみよう。何かが見えるから。食いものは皆で分けよう。まずそんな心があれば、皆、飢えず戦は起こらない。変なメンツを重んじる輩はもういない。死ぬなら一人で静かに死んでくれ。武島さん、私の一存でカブトムシと三人で行く予定だったカラオケを中止し、武島さんには大変、不愉快にあると自覚します。カブトムシは、今若い男に夢中です。片思い、男に首たけみたいです。相手は同級生だった女性の息子みたいです。少女のような彼女はいいように扱われています。そこに気付かないみたいです。男の話ばかり。ほっといて我らの友情、再構築しましょう。気の迷いか、クリスマスの夜にメールでカブトムシにプロポーズし見事に振られました。それから連絡は消えました。最近大事な人との別れが続きます。武島さんのわだかまりが解けるのを待ちます。メールください。一つしかない心が何度もバラバラにわれて。「十五の手紙」。一生懸命、中学の先生だった、武島さん。頑張りすぎないで下さい。人は怠惰でケチだけど愛すべきものです。武島さんの友情、恩義に感謝し贈り続けるメール。その真意、労力に対し赦しの言葉をかけないなら酷で、もはや善良な人ではないとします。武島さん「大空と大地の中で」一緒に歌いましょう。聖書に「義人は一人もいない」という文言が出てきます。この意味は律法を行うことだけでは誰も神の義に適うとされず、信仰つまりイエスの贖いを信じる者が神の義とされ義人と呼ばれるのであるということです。そして義とはまぎれもない誠の愛(アガペー)である。私の恋愛関係妄想が収まってきた。意識せず、気にならなくなったのである。静かである。やはりこうでなければ、しかし恋は聖霊の宮が行ずるものだからどうも言えない。でも良かった。これでいいのだ。大人の男は静かに想い人を浮かべるものだ。みんなありがとう、聖霊の、「皆、神の御使いになるのだよ」というエビデンス(証言)だったのでしょ。今まで幾人かの人に恋文めいたものを送り、心が高揚したのも、すべて真由子さんという湖に注ぐ心を確かなものにするためであったみたいだ。この恋は自分の姿勢にしか表せないもので、彼の人の心中までは解らない。ただ不変の博愛というものを信じ婚姻という所有、呪縛を乗り越え、私に対し美しい好意を持って頂きたく祈念するのである。母はつぶしに来る。私が成長するのを。あえて壁になっているとも思えない。向い風と言うより、ただ傷つける。私の理解者はいないのか。だが最近分かった彼女の劣等感から来ていると、私への嫉妬である。自己中心ともいえるエゴイズムが彼女を取り巻いている。変な儀礼めいたことばかりにこだわりその中で先導者になろうとする。温かい愛を踏みにじる。赦せない。男は外に出ると七人の敵がいるというのが本当の敵は家にいる。遠慮呵責ないからだ。父親の役目も果たしてきた母、エデプスコンプレックス、やはり殺さねば。ただ観念上殺しても会話のない親子が誕生するだけでなんの進捗もない。それでもいいか。5分で決裂する、喧嘩に至る親子の

### 第3章 (本題)

ふれあいには心を痛めるより。すべては彼女の権勢欲と我儘に原因があると断定していいか。いつまでも若い気でいるからだろ。本当に老人の介護にあたってらっしゃる方々の御苦勞身にします。辛いなあホント。前にも書いたかなあ。人は人を傷つけずには生きていけないもの。選択、自己主張。回り気。でもそこに大切なのは愛、思いやりである。温かいものを踏みにじる、そんな母に怒りを感じる私も自省しなくてははいけないか、そうだな。 尊厳死、バチカンがカトリック信者8割のイタリアで認めた。神、以外の誰にも命は奪うことは許されない。これまでのバチカンの見解である。法王フランシスコは末期患者の尊厳死を寛容で受け入れたと言う。バチカンにコンタクトした我が国のR会。開祖の秘書を務めたという教会長は、「牛が木の箱車を引くのが嫌で自殺した。牛は地獄で鉄の車を引くことになった」。なんと残酷な。釈尊【仏陀】は言っている、「私は牛のくびきを外すためにやってきた」。聖書が神にしか自証できないとしたら正義は私にある。そして恣意的に見えても神仏の価値標準はすべて抜苦にあるのだ。ならば当然、尊厳死も認められる。逃げ場のない人はいるのだ。人を追い詰めてはいけない。でもやはり誰も彼もが自殺にはしってははいけない。生きてりゃいいこともあるだろう。猫でも犬でもいい、子供、孫でなくてもその笑顔、寝顔に接するとき幸せを感じてほしい。それが愛。最大の幸福だからである。幸せはささやかであるほど感謝すると輝くものである。 製本代がかかる。しかし私は金銭を要求してはいけないのだろうか。すべて罪人から善人に復活、成仏するための喜捨を望む。お釈迦様は祭りの日、托鉢に村を訪れるが誰も布施をしない。一度帰られる。悪魔が言う。[もう一度行ったらいただけるかも]お釈迦様は毅然として言われた。「悪魔よ、去れ」お釈迦様でも。そういう目に遭ったのだなあ。 私の母が美容室へ行く。直後は上手くセットされているのだが、即日、鬼のような様相になる。うす赤く縮れた毛。美容師はある宗教団体に入会し少し階級が高い幹部になっている。母の心が頭れてくるのであろう。儀礼に拘り、温かいものを踏みにじる。私の愛するものを否定し、否定するものを擁護する、つまり神の裁きの反対ばかり発するのである。彼女は確実に罰に当たっている。猫に毎夜安眠を邪魔される。腰の痛みには耐えなくてはならない。年齢85になろうとしているのに、表面的なヘアースタイルなどに拘る。林住期に入り我欲より離れ、おのれのことより愛を持って子や、孫らに倫理を説かねばならぬ時に来ている。それなのに。雪すかしをする。年寄りの冷や水である。いまだに現役にこだわりシルバーの仕事に出かける。機嫌が悪くなる。猫、私にあたる。頑張りに見えるだろうが、愛を踏みにじり傍若無人に生きる、わが母である。申し訳ない、単なる生活の愚痴みたいで。極めて人間臭くなった。人に読ませるものじゃない。多分私が成長しなければいけないのだろう。だが良心の痛みを感じてはいけない。自分の道に行く。なぜ私はこのように懊悩しなければならない。私を侮辱する勢力、サタンで

### 第3章 (本題)

あろう。瑣末なことでも私は悪を感受する。私には愛、善に背反するものたちが許せない。係わらなければいいのである。それだけである。しかし、「払いのけても降りかかる。何を恨みの雪しぐれ、抜くか長ドス、抜けば白刃に血の吹雪」、私の心持ちである。生命絶対尊重は腹の中ではいつも裏切られている。見えない涙はこぼれる場所を探し出せない。必死なのか。自分に問いかける。余裕はないのか。いや釈尊と同じく、理解してくれる者が果たしてどれだけいるのか、情けなくなっただろう。えらく斜になりすぎだ。私の戦いはこれからも続く。プラプラ楽しみながら生きて行こう。人の言動に惑わされず。人は正しく評価はしてくれないものだ。未練だ。お前の思想は神の思想だ。誰にも解らないかもしれない。人を気にするな。自らを叱咤する。しかしこの弱気はなんだ。しっかりせよ。雪のせいかな。でも弱き心を知っていなければ優しさは生まれないからなあ。すべて思いやりに代えて俺は歩んでいきたい。俺は絶対善である。ヨハネによる福音書8章45, 46, 47節「しかし、わたしが真理を語っているのに、あなたがたはわたしを信じようとしない。あなたがたのうち、誰がわたしに罪があると責めるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜあなたがたは、わたしを信じないのか。神から来たものは神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神から来たものでないからである」。申し訳ありませんが金土、積雪ひどく体調不良もあり休養したいと思えます。よろしくお願ひします。本当にごめんなさい。今日、明日本当にご免なさい。なにせサタンとの持久戦ですので。いぶかしく思われるかもしれませんが本当のことです。いかに涼やかに戦われるかが問われます。林さん、ありがとう。優しさがものぐさな身にしみます。先は不透明ですが、早く復帰したい。ご迷惑おかけしてすみません。皆様にもよろしくお伝えください。今日もありがとうございました。辛抱強い林さん、本当にありがとうございます。本の編集もあり予算で心労しています。360円、本代、如何ですか。聖霊を侮辱するものは侮辱され罰を振り回す者はその非情さから罰が与えられるのである。母を酷く非難する自分。読者の心情に思いを馳せている。皆の親子関係はどうなのだろう。そんな安らぎに満ちたものなのだろうか。親子なんて遠慮がないし、今の自分に対しなぜあの時と思うのではないか。感謝しなければいけない。だけど一言、「義人、食ってけりゃいいが」と言ってほしかった。とりあえず私の批判に「母ちゃんごめんよ」。いたわりを書くことが思い浮かばなかった。総括すれば真由子さんへの純愛が彼女の婚姻によって破局に終わり、なぜか私の心は多情へと向かった。しかしその意味は博愛の実現だった。来る世、私と同じ思考回路を持つ老若男女は神の御使いになる。聖句の成就である。すべては聖霊の宮となった私の必然であった。少し愛することに疲れたなあ。ヨハネ、17, 6わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さ

### 第3章（本題）

いました。そして彼らはあなたの言葉を守りました。 皆、きよかった。

あとがき

旧約にヨブ記がある。神の了解を得たサタンはヨブの信心を試すため酷い目に。けど神への忠誠は変わらなかった。新約のイエスは神を慈父に譬えた。神は愛だ。神にはヨブに対し深い信頼があったのだろう。家屋財産を奪われ、10人の子供を死なされ、自らも病におとされる。神はサタンに言ってやりたかった。そんなことをして何が楽しいのだ。「神を愛するのは絶対的なことで何があっても揺らぐべきものではない」。この降雪と積雪から感じた。何が遭っても信じる。それが信心だ。そこには結果美しいものが流れる。そう愛である。除雪に出ない私に代わって母が雪をすかす。手を貸してくれる人がいる。私は申しわけなくて「ありがとう」も言えなかった。熊は冬眠する。人間も本来、自然に生活を合わせてきた。春が来ることを疑いもせず信じて。だが現代社会では私のように冬籠りするのは皆、出来かねるだろう。「もし自分が出仕しなければ皆に迷惑をかけてしまう」。そんなことはないのだ。選んだ職種が悪い。例えば病院の医師、はっきりいうと人など死んでもいいのだ。それが縁なら仕方がない。泣くな、お前が死んでも組織の奴は喜びこそすれ泣く奴などいないぞ。この競争社会、白旗挙げた方が勝ちなのだ。私が言いたいのは仕方がないものは仕方がない。真宗の諦めではなく、神がそうなされているのだから仕方がないということだ。そこから人間が学ぶとすれば思いやり、いたわり、情けに触れることである。人は常にひとに犠牲を強い迷惑をかけるものである。もしあなたが好いおもいをしているならあなたがいなければ誰かが好いおもいをするということだ。誰かにとってあなたは邪魔なのだ。因縁である。だから周りのことを思うのは根を詰めず、程々にして感謝の祈りを捧げた後は自分を信じ、雨が降る前に歩き出そう。自己犠牲など誰も喜ばない。また奪い合いなどは絶対にいけない。栄光と品位を以て先を譲れ。それでいい。真子、千華お前たちにかこつけて若者たちにメッセージを贈りたかった。荒れた青春の海は厳しいけど、唯、仲間を大切に素直に正直に生きていきなさい。自然体でね。それが上品ということだよ。深い思いやりは伝わるものだ。きっと君達にも人生の春は訪れるだろう。嬉しいお酒飲めるのを待っている。足りなかったらイエスの様に水を葡萄酒に変えてやる。でも飲兵衛はおじちゃんだけか。まあいつでもいいから。急かすわけじゃない。君達がいま幸せならそれでいいのだ。皆様、あまりに私事が多いと叱責されそうですがお許しください。私の愛がエゴに終わらずアガペー（博愛）へと昇華する様をご覧ください。ご精読本当にありがとうございます。ヤツオ印刷の皆様には感謝の言葉が思い浮かばぬほど胸が熱くなっています。本当に皆ありがとうございます。また逢う日まで。ではね。

さようなら

義人